

# 建築教育ニュース

2008.12

東日本建築教育研究会

# 目 次

1.	会長挨拶	会長 佐藤 則夫	1
2.	平成19年度事業及び会計(決算)報告	事務局	2
3.	平成20年度事業計画・会計(予算)報告	事務局	4
4.	平成20年度役員一覧	事務局	6
5.	平成20年度総会・研究協議会報告	小松工高：袖野 貴義	8
6.	題58回東日本建築教育研究会北陸大会報告	小松工高：袖野 貴義	10
7.	計画分科会報告	主査 春日部工業：三野輪雄大	14
8.	法規分科会報告	主査 総合工科：米原 良慈	16
9.	製図分科会報告	主査 東総工業：小嶋 聡	27
10.	構造分科会報告	主査 神奈川工業：高橋 裕	43
11.	施工分科会報告	主査 大宮工業：塩山 昇	47
12.	製図コンクール	委員長 関東第一：塩澤 泰	51
13.	資格取得委員会	委員長 総合工科：小沢 宏	58
15.	「2級建築施工管理技術検定試験」のデータ分析について	資格取得 前橋工業：石井 直樹	59
16.	建築系高校生生徒体験実習引率を通じて	資格取得 総合工科：秋山 竜二	63
17.	長野県の高등학교建築教育の現状	長野工業：清水 高市	65
18.	群馬県の工業高等学校教育の現状	高崎工業：星野 隆一	67
19.	夏期研究協議会「建築法令指導講習会」に参加して	総合工科：富田真理子	70
20.	事務局報告	葛西工業：鈴木 隆	73
21.	編集後記	葛西工業：鈴木 隆	74

## ■東日本建築教育研究会ホームページ■

[http://www.geocities.jp/hn\\_kkk/](http://www.geocities.jp/hn_kkk/)



会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、当会の諸事業にご協力、ご支援いただき誠にありがとうございます。

さて、私こと今夏の北陸大会においてご承認いただき、平成20年度会長に就任いたしました。会長職の責任の重さをひしひしと感じております。前任の能智会長におかれましては、3年間にわたり、当会発展のためお力を尽くしていただきました。ここにあらためて感謝の意を表したいと存じます。また、副会長をはじめ役員の皆様も本当にご苦労さまでした。

今夏の北陸大会のテーマは「生徒の可能性を引き出す建築教育」～かわるもの かわらないもの～でした。このテーマを耳にしたとき、私がすぐに思い浮かんだ事は、教育の話題でよく使われる「不易(ふえき)と流行」の言葉です。

この言葉は江戸時代の俳人 松尾芭蕉の残した言葉とされています。ただ、本人の著書ではなく、弟子の向井去来の記した「去来抄」の中にあります。去来抄は四部に分かれています、その四部「修行」の冒頭に記されています。その内容は、「芭蕉一門には千載不易の句と一時流行の句があり、師は、この二つを分けてお教えになった。不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない。しかし両者の根本は一つである。」と語っています。

教育で使われる場合は、「世の中は流行流行と追い勝ちだけれども、変わらないものが大事である。」という、不易重点タイプと「世の中は常に変化していて、本質的なものも変わっていく。」という流行重点タイプがあると感ずります。

芭蕉が言っている、不易と流行の基は一つであるという意味は、時代を超えて変わらないものと、時代とともに変化していくものがあるが、この二つは根本の所で結びついているということです。

教育の世界でも「伝統を守る」だけでも「改革を進める」だけでも、よくはならない。「不易」と「流行」の見極めとバランスが重要です。そして、それを教師一人一人が考えていくことが大切です。教育は未来を生きる生徒達を育てる事を通して、よりよい社会をつくることです。時代は変化をしていきます。そのスピードは速くなっています。変化に対応することは重要なことですが、そのことだけに目を奪われてはいけないということです。

教育は教師と生徒との人間的な営みです。教師の持っているものを伝える作業でもあります。そのためには、日々の研鑽が必要です。そして、他校の実践を知ることも重要です。この研究会がその助けになればと思います。また、会員の皆様のさらなるご活躍を期待しております。共に生徒達のために頑張りましょう。

最期に、来年度は第59回埼玉大会、次の記念すべき第60回は、福島大会となります。東日本建築教育研究会の発展のために、会員の皆様のこれまで以上のご支援とご協力をお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

# 平成19年度 事業報告

## 1. 総会・研究協議会の実施

期 日 : 平成19年7月26日(木)～7月27日(金)

会 場 : つなぎ温泉 ホテル大観

〒020-0055 盛岡市繁字湯の館37-1

- 1) 開会式
- 2) 総 会
- 3) 研究協議Ⅰ(分科会)
- 4) 夕食会(教育懇談会)
- 5) 研究協議Ⅱ(研究発表及び分科会報告):製図・計画・法規・構造・施工
- 6) 講 評
- 7) 閉会式
- 8) 研究視察

## 2. 夏期研究協議会(計画分科会主催)

内 容 旧富岡製糸場見学他・講演

期 日 平成19年7月31日(火)～8月1日(水)

会 場 旧富岡製糸場他

担 当 計画分科会 岩上 成輝(川崎市立川崎総合科学高等学校)

## 3. 第3回 建築確認申請講習会

内 容 建築確認申請の概要把握と演習課題

期 日 平成19年7月30日(月)

会 場 江東区森下文化センター

担 当 法規分科会 米原 良慈(東京都立小石川工業高等学校)

## 4. 建築系高校生徒体験実習

内 容 各校の施設設備では実施できない大規模な実習を専門施設を利用しておこなう。(安全教育・測量・鉄筋・型枠・足場・高力ボルト実習)

期 日 平成19年8月20日(月)～23日(水)

会 場 富士教育訓練センター

担 当 資格取得推進委員会 小沢 宏(東京都立総合工科高等学校)

## 5. 理事会・委員会等の開催

会の構成

- 1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催予定
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催予定
- 3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催予定
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊行物
  - ①建築教育ニュース 2007年号(12月発行)
  - ②会員名簿(7月発行)
  - ③各種参考書

## 6. コンクール・作品展示等

第26回製図コンクール締切日 平成19年11月5日(月)～10日(土)

第12回CAD作品展 締切日 平成19年11月5日(月)～10日(土)

## 7. 平成19年度生徒表彰

申し込み 平成20年1月31日 要綱は建築ニュースに同封

## 8. その他 関係諸団体との連絡調整

## 平成19年度 会計決算報告

会長 能智 功  
 会計 竹野 秀治

下記の通り御報告致します

## 1. [収入額]

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
会費	981,500	969,500	-12,000	149校分(6,500×149校) +個人会員1名(1,000×1名)
雑収入	50,000	50,569	569	全工協助成金50,000円 利息569円
印税	150,000	156,863	6,863	基礎問題集・構造図集 法規学習ノート・図説建築資料集
繰越金	164,980	164,980	0	
合計	1,346,480	1,341,912	-4,568	

## 2. [支出額]

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
1) 事業費	980,000	1,000,116	-20,116	
総会費	170,000	185,000	-15,000	協議会補助、本部経費等
資料費	210,000	284,250	-74,250	資料、ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	60,000	0	夏期研究協議会(計画)補助 北海道出張補助等
出張補助費	120,000	37,910	82,090	西日本大会欠席の為無し 3分科会=9,041×3
分科会費	60,000	72,956	-12,956	計画分科会=45833
分担金	360,000	360,000	0	5分科会・1委員会=@60,000×6
2) 運営費	265,500	210,208	55,292	
役員会議費	30,000	5,280	24,720	交通費等(常任理事会、主査会等) 総会通知、ニュース発送等、Eメール の活用により経費削減
通信費	40,000	36,000	4,000	
全高建協会	75,500	74,500	1,000	500円×149校分
雑費	20,000	20,000	0	事務用品代
事務費	20,000	2,980	17,020	事務局運営費
名簿費	15,000	15,000	0	
ホームページ維持費	15,000	15,000	0	プロバイダー等
賞状発送	50,000	39,243	10,757	賞状、発送用箱等
手数料	0	2,205	-2,205	銀行振り込み手数料
3) 予備費	100,980	0	100,980	
4) 合計	1,346,480	1,210,324	136,156	

3. [差引残高] 1,341,912 - 1,210,324 = 131,588

4. [次年度繰越] 131,588

会計監査の結果、収支・帳簿等相違無いことを認めます

平成 20年 3月 31日

## 平成20年度 事業計画(案)

### 1. 総会・研究協議会の実施

期 日 : 平成20年7月31日(木)～8月1日(金)

会 場 : 金沢歌劇座

〒920-0993 金沢市下本多町6番丁27番地  
TEL(076)220-2501

- 1) 開会式
- 2) 総 会
- 3) 研究協議Ⅰ(分科会)
- 4) 夕食会(教育懇談会)
- 5) 研究協議Ⅱ(研究発表及び分科会報告): 製図・計画・法規・構造・施工
- 6) 講 評
- 7) 閉会式
- 8) 研究視察

### 2. 夏期研究協議会(法規分科会主催)

内 容 建築法令講習会

期 日 平成20年8月4日(月)～8月5日(火)

会 場 建築家会館

担 当 法規分科会 米原 良慈(都立総合工科高等学校)

### 3. 建築系高校生徒体験実習

内 容 各校の施設設備では実施できない大規模な実習を専門施設を利用しておこなう。(安全教育・測量・鉄筋・型枠実習)

期 日 平成20年8月18日(月)～21日(木)

会 場 富士教育訓練センター

担 当 資格取得推進委員会 白井 尚美(東京都立葛西工業高等学校)

### 4. 理事会・委員会等の開催

会の構成

- 1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催予定
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催予定
- 3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催予定
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊行物
  - ①建築教育ニュース2008年号(12月発行)
  - ②会員名簿(8月発行)
  - ③各種参考書

### 5. コンクール・作品展示等

第27回製図コンクール締切日 平成20年11月4日(火)～10日(月)

### 6. 平成20年度生徒表彰

申し込み 平成21年1月31日 要綱は建築ニュースに同封

### 7. その他 関係諸団体との連絡調整

平成20年 7月31日

## 平成20年度 会計 予算 (案)

会 長 佐藤 則夫

会 計 落合 知枝

## 1. [収入額]

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	955,500	147校分(6,500×147校)
雑 収 入	50,000	全工協助成金、銀行利息
印 税	130,000	基礎問題・構造図集・法規学習ノート
繰 越 金	131,588	
合 計	1,267,088	

## 2. [支出額]

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事業費	1,000,000	
総 会 費	170,000	総会補助、協議会補助、本部経費等
資 料 費	240,000	総会資料、ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	夏期研究協議会(法規)
出張補助費	120,000	西日本、北海道出張補助、参与交通費
分科 会費		
印税分配費	50,000	4分科会で配分
分 担 金	360,000	製図6・計画6・法規6・構造6・施工6・資格取得委員会6
2) 運 営 費	263,500	
役員会議費	30,000	常任理事会・主査会、交通費等
通 信 費	40,000	総会通知、ニュース発送通信費等
全高建協会	73,500	500円×147校分
雑 費	20,000	事務用品代
事 務 費	20,000	事務局運営費
名 簿 費	15,000	名簿作成費
ホームページ維持費	15,000	プロバイダー等
賞 状 発 送	50,000	賞状、発送用箱等
3) 予 備 費	3,588	慶弔費等
4) 合 計	1,267,088	

# 平成20年度役員名簿

1 会 長	東京都立葛西工業高等学校 (校長)	佐藤 則 夫
2 副 会 長	石川県立小松工業高等学校 (校長) 埼玉県立川越工業高等学校 (校長) 東京都立墨田工業高等学校 東京都立総合工科高等学校 千葉県立東総工業高等学校	村上 哲 夫 田 中 良 司 大 久 保 健 小 沢 宏 聡 小 島 聡
3 事 務 局 長	東京都立葛西工業高等学校	鈴 木 隆
4 会 計	東京都立葛西工業高等学校	落 合 知 枝

## 5 常 任 理 事 [※会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計は兼任]

河 合 亮 一 (北海道・旭川工)	齊 藤 延 夫 (栃木・宇都宮工)
富 澤 宏 之 (群馬・前橋工)	星 野 隆 一 (群馬・高崎工)
芳 賀 勤 (埼玉・大宮工定)	遠 藤 啓 史 (千葉・京葉工)
高 野 秀 章 (東京・日工大付東京工)	千 葉 一 雄 (東京・東工大付属科技高)
田 口 学 (神奈川・磯子工)	石 川 清 人 (山梨・峡南工)
前 田 潔 (東京・蔵前工定)	大 橋 正 俊 (東京・蔵前工)
鈴 木 修 (静岡・浜松工)	小 林 勝 広 (東京・総合工科)
小 林 勝 広 (東京・総合工科)	松 下 信 禎 (東京・総合工科定)
片 山 路 仁 (全高建協・葛西工)	袖 野 貴 義 (石川・小松工)

6 都 道 県 理 事	北海道河 合 亮 一 (旭川工)	北海道行 場 義 修 (帯広工)
	青 森 岩 城 伸 行 (十和田工)	岩 手 外 館 弘 喜 (久慈工)
	宮 城 畠 山 弘 幸 (仙台工)	秋 田 佐 々 木 純 悦 (横手清陵)
	山 形 笹 木 博 志 (鶴岡工)	福 島 池 上 邦 彦 (会津工)
	栃 木 小 嶋 計 一 (宇都宮工)	群 馬 星 野 隆 一 (高崎工)
	埼 玉 蓮 見 幸 雄 (熊谷工)	茨 城 太 田 康 史 (下館工)
	千 葉 鈴 木 康 夫 (千葉経済大付属)	東 京 富 田 眞 理 子 (総合工科)
	神 奈 川 伊 藤 彰 人 (鶴見工)	山 梨 浅 川 俊 夫 (甲府工)
	新 潟 湯 南 保 善 久 (上越総合技術)	長 野 清 水 高 市 (長野工)
	富 山 葛 井 保 秀 (富山工)	石 川 小 酒 正 明 (金沢市立工)
	福 井 広 田 喜 文 (武生工)	静 岡 鈴 木 修 (浜松工)
	愛 知 九 町 武 志 (一宮工)	岐 阜 佐 久 間 英 謙 (岐阜工)

7 会 計 監 査	東京都立田無工業高等学校 千葉県立市川工業高等学校	竹 野 秀 治 岩 瀬 政 利
-----------	------------------------------	--------------------

## 8 分 科 会 委 員

- 1) 製図分科会:主査 小 嶋 聡 (東 総 工 )
- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| ☆ 吉 城 守 (春日部工)     | 櫻 井 良 明 (甲 府 工 ) |
| 鈴 木 浩 之 (那須清峰)     | 吉 本 正 樹 (高 崎 工 ) |
| 笹 崎 ひろみ (田 無 工 )   | 森 嶋 真 一 (峡 南 工 ) |
| 國 島 かほり (向 の 岡 高 ) | 竹 田 基 (熊 谷 工 )   |
| 村 井 和 幸 (新 発 田 南 ) |                  |
- 2) 計画分科会:主査 三野輪 雄大 (春 日 部 工 )
- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| ☆ 岩 上 成 輝 (川 崎 総 科 ) | 大 橋 正 俊 (蔵 前 工 ) |
| 荒 木 宏 道 (前 橋 工 定 )   | 江 原 聖 直 (大 宮 工 ) |
| 江 口 敏 彦 (市 川 工 )     | 野 村 博 美 (墨 田 工 ) |

- 3) 法規分科会:主査 米原 良 慈(総合工科定)  
 ☆根岸 俊行(館林商工) 武田 明 広(市川工)  
 岩瀬 政利(市川工定) 佐藤 紀子(鶴岡工)  
 佐久間 英謙(岐阜工) 富田 眞理子(総合工科)

- 4) 構造分科会:主査 高橋 裕(神奈川工)  
 青柳 昭(市川工) 秋山 竜二(総合工科)  
 雨宮 行光(甲府工) 榎本 吉晃(安田学園)  
 大久保 健(墨田工) 小澤 誠志(田無工)  
 黒澤 昇(前橋工) 斉藤 延夫(宇都宮工)  
 佐々木 栄治(向の岡工) 沢野 茂(墨田工)  
 菅沼 雄介(富士北稜) ☆菅谷 太郎(川越工)  
 鈴木 隆(葛西工) 星野 志保(峡南高)

- 5) 施工分科会:主査 塩山 昇(大宮工)  
 ☆小嶋 計一(宇都宮工定) 田辺 登(昭和第一学園)  
 丸山 悟(田無工) 伊藤 彰人(鶴見工)  
 権田 幸男(大宮工) 平柳 政幸(日工大付東京工)  
 高橋 篤史(安田学園) 網中 正仁(館林商工)  
 峯 孝一(京葉工) 寒河江 美和(新潟工)  
 飯塚 日登美(新潟工) 山口 哲也(蔵前工)  
 吉村 公利(春日部工) 林 祐介(市川工)  
 鷹野 正明(向の岡工)

9 編集委員会:委員長  
 今年度は主査会で代行する。

- 10 製図コンクール運営委員会:委員長 塩澤 泰(関東第一)  
 ☆田口 学(磯子工) 筒井 斉(神奈川工定)  
 斎藤 史晃(今市工) 橋本 政美(昭和第一学園)  
 福島 勝(日工大付東京工)  
 吉本 正樹(高崎工)

- (製図分科会) 櫻井 良明(甲府工) 鈴木 浩之(今市工) 吉本 正樹(高崎工)  
 (計画分科会) 荒木 宏道(前橋工定) 江原 聖直(大宮工)  
 (法規分科会) 武田 明広(市川工) 岩瀬 政利(市川工定) 米原 良慈(総合工科定)  
 (構造分科会) 菅沼 雄介(富士北稜) 高橋 裕(神奈川工) 鈴木 隆(葛西工)  
 (施工分科会) 高橋 篤史(安田学園) 寒河江 美和(新潟工) 吉村 公利(春日部工)

- 11 資格取得推進委員会:委員長 小沢 宏(総合工科)  
 五十嵐 忠彦(今市工) 石井 直樹(前橋工)  
 泉 隆一(春日部工) 遠藤 啓史(京葉工)  
 片山路 仁(葛西工) 白井 尚美(葛西工)  
 ☆鈴木 隆(葛西工)

- 12 広報委員会:委員長 榎本 吉晃(安田学園)  
 大久保 健(墨田工) 關戸 亮(墨田工)

13 顧問及び参与

- 1) 顧問  
 北島 敬己(第16代会長) 原田 昭(第18代会長)  
 岡田 義治(元委員長) 佐藤 清親(第20代会長)  
 能智 功(第21代会長)
- 2) 参与  
 土田 裕康(元副会長) 松井 貞二(前副会長)  
 大間 俊彦(元編集委員長)

第58回 東日本建築教育研究会総会・研究協議会北陸大会要項

共通テーマ 『生徒の可能性を引き出す建築教育』

—かわるもの かわらないもの—

期 日 平成20年7月31日(木)～8月1日(金)

会 場 金沢歌劇座

≪第1日目 7月31日(木)≫

都道府県理事会受付 9:30～10:20

都道府県理事会 10:30～12:00

来賓・会員受付 12:00～12:50

13:00～13:50

1. 開会式

- |         |                    |       |
|---------|--------------------|-------|
| 1) 開会の辞 | 北陸大会副実行委員長         | 松井 廣  |
| 2) 挨拶   | 北陸大会実行委員長          | 村上 哲夫 |
|         | 東日本建築教育研究会会長       | 能智 功  |
| 3) 来賓祝辞 | 石川県教育委員会教育長        | 中西 吉明 |
|         | 西日本工高建築連盟会長        | 吉村 俊昭 |
| 4) 来賓紹介 | 石川県教育委員会教育長        | 中西 吉明 |
|         | 同学校指導課長            | 岩本 弘子 |
|         | 同学校指導課高等学校教育担当指導主事 | 平木 外二 |
|         | 福井県教育庁高校教育課指導主事    | 藤枝 徹  |
|         | 石川県産業教育振興会会長       | 吉田 國男 |
|         | 西日本工高建築連盟会長        | 吉村 俊昭 |
| 5) 閉会の辞 | 北陸大会副実行委員長         | 松井 廣  |

2. 総 会

14:00～15:20

- (1) 開会の辞  
(2) 議長選出  
(3) 議 事

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1) 平成19年度事業報告   | 5) 会長退任感謝状贈呈・挨拶 |
| 2) 平成19年度会計決算報告 | 6) 会長新任挨拶       |
| 3) 会計監査報告       | 7) 平成20年度事業計画   |
| 4) 役員改選         | 8) 平成20年度予算計画   |

- (4) 各分科会・委員会報告  
(5) その他・事務局連絡  
(6) 閉会の辞

3. 講 話 I

15:30～15:50

「建設産業をめぐる最近の情勢について」

国土交通省総合政策局建設市場整備課長 石崎 仁志

4. ポスターセッション

15:50～16:20

5. 研究協議 I (分科会)

16:20～17:40

共通テーマ 「生徒の可能性を引き出す建築教育」

—かわるもの かわらないもの—



製図分科会	「建築製図のあり方と評価のポイントー2」 ＝展開事例から探る初期製図教育（断面・立面編）＝	
計画分科会	「住宅設計の評価指標について」	
法規分科会	「こんなに変わった！！建築基準法および建築士法の改正・ 解説（講師：鈴木繁康氏）」	
構造分科会	「J W - C A D を用いた効率的な構造設計の問題作り」	
施工分科会	「建築施工視覚的補助教材 木造住宅（仕上編）」	
6. 教育懇談会	「エクセルホテル東急」	19:00～21:00
《第2日目 8月 1日（金）》		
1. 講話Ⅱ		9:00～9:40
	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 池守 滋	
2. 研究協議Ⅱ（全体会）		9:50～11:30
(1) 研究発表		
	「高校生参画のまちづくりと空間評価」ーシャッターアートによる防犯ボランティアー 埼玉県立川越工業高等学校 建築科 別役 孝与 「富山県工業教育振興会と工業技術論文発表大会について」 富山県立富山工業高等学校 建築科 葛井 保秀 藤井 和弥	
(2) 分科会報告		
3. 講評		11:40～11:50
	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 池守 滋	
4. 閉会式		12:00～12:30
1) 開会の辞	北陸大会副実行委員長 松井 廣	
2) 会長挨拶	東日本建築教育研究会会長 佐藤 則夫	
3) 次期開催県代表挨拶	埼玉県立川越工業高等学校長 田中 良司	
4) 閉会の辞	北陸大会実行委員長 村上 哲夫	
5. 諸連絡		12:30～12:40
6. 昼食		12:40～13:30
7. 研究視察		13:30～17:00
	金沢21世紀美術館・金沢城公園（菱櫓・五十間長屋など）・兼六園	



全体会の様子



ポスターセッション

# 第58回東日本建築教育研究会北陸大会

石川県立小松工業高等学校

袖野 貴義

## 1. はじめに

昭和62年に石川大会が行われて以来、21年ぶりにここ石川県で総会並びに研究協議会が開催された。今大会は北陸大会であり、富山・石川・福井3県の合同開催となった。

3県で力を合わせ、大会を成功させたいという思いであった。

また、大会が開かれる3日前に浅野川が氾濫し大きな被害が出た。会員の方々からの問合せも多数ありこの大会に対する会員の意識の高さを改めて知った。

## 2. 本研究会の目的

本会は工業教育、特に建築教育に関する研究を行い、その向上改善を図ると共に、相互の連絡を密にすることを目的とする。

## 3. 日程・会場・参加人数

日 程：平成20年7月31日（木）～8月1日（金）

会 場：金沢歌劇座（金沢市下本多町）

参加人数：会員169人、賛助会員21人、来賓7人

## 4. 共通テーマ

『生徒の可能性を引き出す建築教育』

—かわるもの かわらないもの—

## 5. 大会概要

《第1日目 7月31日》

- 主査会：大会日程、進行などについての確認
- 都道県理事会：あいさつ、各理事紹介、総会内容の確認、各ブロックでの活動報告
- 開会式：  
来賓として、  
石川県教育委員会教育長代理金田清参事  
同学校指導課課長代理近藤繁彦担当課長  
同平木外二担当指導主事  
福井県教育長高校教  
育課藤枝徹指導主事  
石川県産業教育振興会吉田國男会長の出席を得て、開会式が行われた。
- 総会：議事進行は本部役員によって行われた。

今年3月に定年を迎えた能智功会長から佐藤則夫新会長（都立葛西工業高校校長）への会長引継ぎも行われた。

## ○講話 I

「建設産業をめぐる最近の情勢について」

国土交通省総合政策局建設市場整備課長 石崎 仁志

現在の建設産業を取り巻く変化として、就業者の実態や将来的な担い手不足の現状について説明があった。

今年度より、ものづくりを支える「人づくり」関係として、建設業人材確保・育成モデル事業を実施している。本年度は栃木県と群馬県が実施している。改めて建設産業の現況を直視して、将来を真剣に考えなければならないと思った。



## ○研究協議 I (分科会)

- 製図分科会「建築製図のあり方と評価のポイント-2」  
=展開事例から探る初期製図教育(断面・立面編)=

製図コンテスト第1位の生徒をいかにして指導したかをくわしく報告されました。毎日9時10時まで指導されその内協力して下さる先生も出てきたこと。生徒に対してはほめることはもちろんどのようにしてモチベーションをあげたかなどそのご苦労は大変なようでした。

- 計画分科会「住宅設計の評価指標について」

計画分科会では、5~6名で4つのグループにわかれ、住宅設計の評価指標について意見の交換を行いました。今回は「LDKを設計する」という課題で実際に生徒が計画した平面図を基に、各先生方が①必要条件の標記②間取りや開口部の関係③適切な動作空間の確保④家事動線の確保⑤独自のアイデアの5つの項目、計10点で評価し、評価について意見を出し合い、最後に総まとめを行い分科会を終えました。

- 法規分科会「こんなに変わった!!建築基準法および建築士法の改正・解説(講師:鈴木繁康氏)」元:東京都市街地建築部、現:都市科学研究所  
鈴木繁康氏を講師にお迎えし、構造計算書偽装問題で明らかになった課題への法の改正に関する講演をしていただき、そのお話しを基に質疑応答を交えた会となった。

- 構造分科会「Jw\_CADを用いた効率的な構造設計の問題作り」

当分科会では、フリーウェアのJw\_CADを用いた構造設計用の授業プリントの作成事例を題材に事例報告があった。

CADソフトの代表的な機能であるレイヤやレイヤグループを効果的に用いたプリント作成事例で今後の発展が期待できると思われる。

今後は、研究会のHPにも事例集をアップし

員校の先生方にどんどん利用してもらえるようなかたちにしてゆくので協力を要請された。

- 施工分科会「建築施工視覚的補助教材 木造住宅(仕上編)」

大宮工業高校の太田先生が発表しました。木造住宅の施工の概要を実際の最新現場写真や動画を交えた、分かりやすく解説する“視覚的補助教材”を紹介しました。前回までのRC造、S造、木造の基礎・骨組みに続く完結編として、今回は“仕上げ工事”編でした。

○教育懇談会 「エクセルホテル東急」

賛助会員など約150名の参加で、各会員で活発な情報交換が行われた。

《第2日目 8月 1日》

講話Ⅱ

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官

池守 滋

指導要領の改訂の話については、まだ詳細は策定中のため言えないとのことであったが、多様化していく高等学校では、それぞれ学校の学科の特色を出していかなければならない。文部科学省は最低の基準しか設定はしていない。週30時間以上。卒業単位、工業単位数。などなど。

あとは高等学校各自で責任を持って特色ある学校づくりに取組んで欲しいとの内容であった。



○研究発表

●「高校生参画のまちづくりと空間評価」

—シャッターアートによる防犯ボランティア—  
埼玉県立川越工業高等学校 建築科 別役 孝与

クレアモールという人通りの多い地域で、落書きが多く街のイメージもあまりよくなかった。

そこで、落書きを消し、シャッターに絵を描くことを始めた。街行く人たちにアンケートを実施した。評価尺度はオズグッドのSD法でおこなった。結果として、街のイメージもよくなり防犯効果がでたということであった。

何分にも開店前の2時間しか作業が出来ない。

店主に話をしてもなかなかOKがいただけないという苦労話もしていただいた。



●「富山県工業教育振興会と工業技術論文発表大会について」

富山県立富山工業高等学校 建築科 葛井 保秀  
藤井 和弥

先ず葛井先生から富山県工業教育振興会についての説明があった。「ものづくり人材育成」を支援するために、産学の緊密な連絡、協力をおこなうというまことに我々にとって頼りになる組織で、地元工業高校に目を向け、支援するというような会は他県に類を見ないのではないかと思う。

次に藤井先生から工業技術論文発表大会に出場するために地球温暖化に着目し、壁面緑化に取り組みまたその効果を具体的に数字で比較しやすいように発表いただいた。その結果、優秀賞をいただくことができ、海外研修に参加した。



#### ○分科会報告

各主査より前日に行われた分科会の報告があった。どの分科会も3年を1つの区切りとして研究を進めている。特に3年目の場合は結果と反省、今後の課題などが報告されていた。

#### ○講評

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官  
文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 池守 滋

研究発表の講評をいただいた。

#### ○閉会式

#### ○研究視察

研究視察として、会場の隣にある金沢21世紀美術館（姉島和代氏設計）、金沢城公園（菱櫓・五十間長屋）、兼六園を見ていただいた。

#### 6. おわりに

北陸大会の運営に際し、約2年前から石川県で準備会を立ち上げてこの日に臨んだ。

会場は研究視察場所の近くとし、皆様には申し訳なかったが多少の移動をしていただき教育懇談会とホテルを設定した。

今回は北陸3県で運営となったが、隣り合う県であっても文書1枚作成するにも内容を若干変えたりした。また、各関係機関に関しては足並みを揃えないといけないという思いから苦勞が耐えなかった。

しかし、そんな苦勞も会が始まれば段取り良く進行して行き時間通りに終わることが出来た。

これも本部役員・賛助会員など皆様方のご協力があったのことで。改めて皆様方に感謝し、御礼を申し上げます。また、皆様には不行き届きの点が多々あったと思いますがお許しを頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

# 計画分科会報告

埼玉県立春日部工業高等学校 三野 輪雄大

計画分科会では、「住宅設計の評価指標」について、授業実践報告や調査研究を行いました。以下に活動内容を報告いたします。

## 平成19年度 第3回 平成19年10月9日（小石川工高）

岩手大会研究協議会のテーマである、フィールドワークの指導方法について報告及び反省事項を協議しました。

また、今後の協議内容として「住宅計画の評価方法および点数化」に決定し調査研究を進めていくこととしました。

## 平成19年度 第4回 平成19年12月7日（小石川工高）

「住宅計画の評価方法および点数化」について、考え方や評価方法を協議し、事例として製図コンクール（課題3）の作品について、分科会委員が各自で考えた評価指標および配点にて評価してみました。

## 平成19年度 第5回 平成20年2月15日（小石川工高）

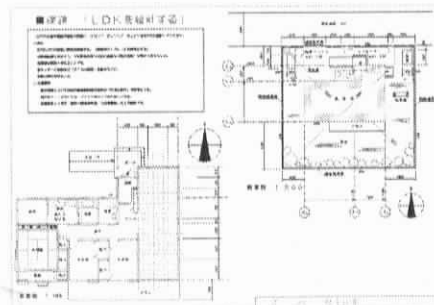
分科会委員の各校での「住宅計画の評価方法および点数化」取り組みについて意見交換をしました。また、始めて住宅計画を学ぶ生徒を対象とした計画課題の評価方法と点数化について協議していくことになりました。

## 平成20年度 第1回 平成20年5月20日（墨田工高）

前回の協議を継続し、「建築設計製図」の製図例からLDKを生徒に計画してもらい分科会委員で評価および点数化を実施することにし、課題作成を行いました。

## 平成20年度 第2回 平成20年7月3日（墨田工高）

生徒の課題作品を分科会委員で評価および点数化を行い、評価の内容について協議しました。評価項目を次ページの5項目とし、点数化しました。今回協議した内容を北陸大会で協議し、参加された先生方に評価をしてもらいながら意見交換していくことになりました。





- ◆ 法規分科会では、会員参加型講習会 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」の実施とともに内部委員のさらなる法規理解を深めるための研究調査による研鑽「20年版 建築法規の過去問題集改訂編集および20年版 建築法規ワークノート改訂作業」を併行して取り組みました。

以下、既済の活動内容及び今後の活動予定を報告します。

<活動報告> (昨年度、岩手大会以降～本年度、北陸大会まで)

## I. 分科会議事について

- (1) 第28回 法規分科会・・・(07/10/16 東京都立小石川工業高等学校にて)
  - ・第3回建築確認申請講習会の反省(アンケート結果に基づき)
  - ・平成20年版「建築法規ワークノート」編集進捗確認
  - ・平成20年版「建築法規の過去問題集」編集進捗確認
  - ・20年度 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」実施について検討
  - ・20年度 北陸大会 法規分科会研究協議検討  
題目「こんなに変わった!! 建築基準法および建築士法の改正・解説」
- (2) 第29回 法規分科会・・・(07/12/04 東京都立小石川工業高等学校および表参道ヒルズにて)
  - ・平成20年版「建築法規ワークノート」編集進捗確認
  - ・平成20年版「建築法規の過去問題集」編集進捗確認
  - ・20年度 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」実施について検討
  - ・20年度 北陸大会 法規分科会研究協議検討  
題目「こんなに変わった!! 建築基準法および建築士法の改正・解説」
- (3) 第30回 法規分科会・・・(08/03/04 千葉県立市川工業高等学校にて)
  - ・平成20年版「建築法規ワークノート」編集進捗確認
  - ・平成20年版「建築法規の過去問題集」編集進捗確認
  - ・20年度 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」実施について検討
  - ・20年度 北陸大会 法規分科会研究協議検討  
題目「こんなに変わった!! 建築基準法および建築士法の改正・解説」
- (4) 第31回 法規分科会・・・(08/05/19 東京都立総合工科高等学校にて)
  - ・平成20年版「建築法規ワークノート」編集進捗確認
  - ・平成20年版「建築法規の過去問題集」編集進捗確認
  - ・20年度 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」実施について検討
  - ・20年度 北陸大会 法規分科会研究協議検討  
題目「こんなに変わった!! 建築基準法および建築士法の改正・解説」
- (5) 第32回 法規分科会・・・(08/07/01 東京都立総合工科高等学校にて)
  - ・平成20年版「建築法規ワークノート」編集進捗確認
  - ・平成20年版「建築法規の過去問題集」編集進捗確認
  - ・20年度 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」実施について検討
  - ・20年度 北陸大会 法規分科会研究協議検討  
題目「こんなに変わった!! 建築基準法および建築士法の改正・解説」
  - ・19年度実施講習会「第3回建築確認申請講習会」実施について検討
  - ・20年度夏期研究協議会「建築法令講習会」実施計画について検討



## (6) 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」

(08/08/4, 8/5 建築家会館、表参道ヒルズ他)

以上を分科会議事報告とします。

## II. 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」の実施報告

・過日8/4(月)、5(火)東京都渋谷区神宮前の「建築家会館」および「表参道ヒルズ」その他近在する現代建築物に於いて、「夏期研究協議会 建築法令指導講習会」を実施いたしました。講師には、設計工房 佐久間の佐久間順三氏を招聘して参加者26名で実施しました。

本講習会は、平素実務に携わることができない私ども教員も建築法規については、他の科目と異なり実務としての知識が必要となります。また、他科目との関連性が特に多いのも特徴であるため、第1日目は、座学形式で講義内容を改正建築基準法においては、確認申請の厳格化、構造計算適合性判定、改正建築士法における概要、数年前に取り入れられた「シックハウス対策」、「天空率」を取り上げ、見直しを検討・進捗している「4号建物の緩和規定」などを前半にレクチャー後、課題演習・解説により、参加者がより理解を深めていただく内容としました。第2日目午前中は、都市部の歴史的建築物の再生・あり方という観点から「旧同潤会 青山アパート」解体後の「表参道ヒルズ」の見学をおこない、午後は、近在する現代建築物「塔の家(東孝光)、代々木国立屋内競技場(丹下健三)、日本看護協会(黒川記章)、ハナエモビル(丹下健三)、TOD'Sビル(伊藤豊雄)」などの見学をおこないました。

### 第1日目

- 改正基準法および改正建築士法に関する概要説明
- 建築確認・検査の厳格化
- シックハウス対策、天空率
- 4号建物の緩和規定(壁量計算・4分割法・N値計算)
- 構造計算適合性判定
- 課題演習・解説
- 質疑応答

### 第2日目

- 表参道ヒルズ内外観見学
- 近在現代建築物の見学

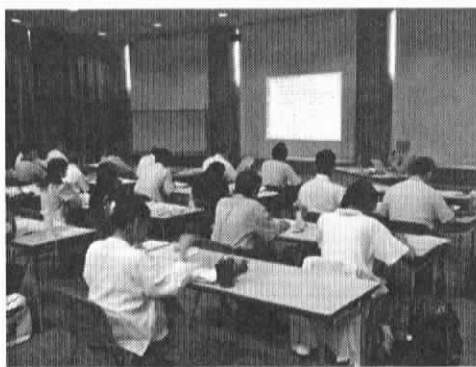
まず、第一日目の午前中では、講師より順序立てて改正事項について丁寧な解説がなされました。紙面の関係上、ここでは主な項目の紹介に留めることにしますが、内容は実務者としての具体的・適正な説明でありました。

- 1 「建築確認・検査の厳格化について」
  - 1) 構造計算適合性判定制度(法6条5項)
  - 2) 不備な書類は再申請(国住指1331号H19年6月20日)
  - 3) 建築確認審査期間延長(法6条4項、21日から35日)
  - 4) 構造関係規定の見直し(法20条、令35条)  
大臣が認める方法
  - 5) 一定の共同住宅に対する中間検査
- 2 「指定確認検査機関の業務の適正化」
- 3 「図書保存の義務化」

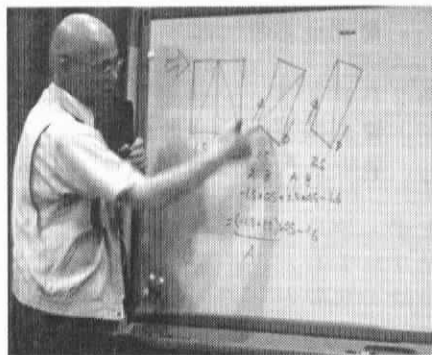
- 1) 特定行政庁に対する（規則6条の3第5項）
- 2) 指定確認検査機関、建築士事務所に対する（士法規則21条）
- 4 「建築士および建築士事務所の業務の適正化」
  - 1) 構造計算によって安全を確かめた旨の証明書（士法20条第2項）
  - 2) 免許の欠格事由、登録拒否の厳格化（士法7条）2年から5年
  - 3) 処分建築士氏名公表（士法9条）
  - 4) 建築士事務所定期報告（士法23条の6）
  - 5) 契約書面交付義務（士法24条の6）
- 5 「罰則の強化」（法98条～106条）、（士法35条～38条）
- 6 その他
  - 1) 証明書写し+別添書類写し（規則別記50号の12様式）
  - 2) 構造計算書の構成  
構造計算概要書、構造計算チェックリスト、荷重・外力計算書など
  - 3) 構造計算概要書の様式

併せて、このたびの改正基準法による現場の混乱等を鑑みて国土交通省から「実務者向けのわかりやすい 新しい建築確認の要点」（第3版）という冊子を用いた説明がおこなわれました。特に申請図書による訂正や計画変更などの取り扱いの見直しについて、例えば、1) 申請図書の訂正 2) 申請図書の記載 3) 認定書の写し 4) 構造計算適合判定 5) 計画変更の取り扱い（軽微な変更の定義など） 6) 増改築の円滑化を図るための全体計画認定制度 7) 確認申請書の様式などの説明で具体例を示されました。

続いて3年ほど前に斜線制限事項で緩和された「天空率」の意味合いやその活用方法や現在見直しが検討され改正が先送りされた「4号建物の緩和規定」（法6条の3）についての重要性の説明がおこなわれました。これは、某建設会社の1800棟にのぼる壁量不足により、それに関わった1級建築士の5人が免許取り消し処分となり22年ぶりに見直しが検討されている。その内容は「壁量計算」、「4分割法」、「金物（N値計算）」であり、現在、建築士による設計では省略図書とされていたものが大きく見直されるとのことである。



●スライドによる講習風景



●接合端部の引張り・圧縮力の説明

構造計算適合判定については、対象建築物①ルート2、ルート3 ②大臣認定プログラム使用 ③手数料などの説明がなされた。

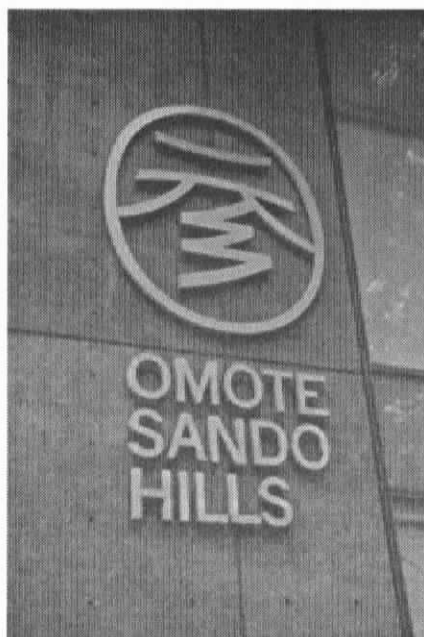
建築士法改正については、1) 建築士の資質・能力の向上 2) 高度な専門能力を有する建築士（構造建築一級建築士：5年以上実務経験 3日間講習うち1日修了考査）高度な構造計算（保有水平耐力計算、限界耐力計算）（RC造：高さ20M超、S造：4階建て以上、木造：高さ13M超、軒高9M超）、設備設計一級建築士

：5年以上実務経験 3日間講習うち1日修了考査 3階建て以上かつ床面積5,000㎡超)などの新たに創設される建築士制度および建築士受験に伴う実務要件の説明がおこなわれました。

昼食時間を挟み、午後より「4号建物(木造2階建て)」の課題演習に取り組みました。

冒頭、この4号建物に対する構造計算の必要性、講師が特に強調していたのは「今後見直しされることになるこの部分は、ぜひ工業高校生が卒業する時点でマスターしておいてもらいたい」とのことでした。つまり業界では、プレカット工場などが担っている状況が多く極端なところは確認申請後に検討する業者も少なくないとのことだが、見直し後は確認申請段階で要求されるためこの程度の理解は要求されてくることは必須であるとの事です。

最後の参加者代表からは、「実務者である方からの現実味のあるお話を伺え非常に勉強になった」との弁でした。



第2日目は、表参道ヒルズの視察見学となり、参加者一同に集合セキュリティの関係上一括入館をしました。見学前の事前説明では館長である荒川氏より「表参道」の歴史について説明がなされました。

もともと「表参道」は、明治天皇の御心霊をお祀りする神宮として創建された明治神宮の参道からスタートしたのが始まりとのこと。創建当時は鳥居や鎮座する参拝客の絶えないにぎやかな通りであったようです。そして、関東大震災の後に当時としては画期的な日本初のRC造の集合住宅「同潤会青山アパート」が誕生しました。戦災を経て時代をリードする最先端エリアとした街に変貌してきました。

同潤会青山アパートも建物そのものの老朽化と併せて都市計画上、防犯上など様々なハードルにぶつかり2006年に「表参道ヒルズ」として現在に至っているとのことでした。

続いて森ビル設計部2名の方より建物の概要が説明され、2班に分かれての見学となりました。館内からスタートし、地下部分(駐車場含む)からさらに「旧同潤会青山アパート」を模して再生した「同潤館」に入り館外へと進みました。その後屋上より住居部分に進み「免震構造」部分の説明を受け、モデルルームの一室に案内され打ち合わせ場所に戻ってきました。

内部空間での見どころはやはり「スパイラルスロープ」で、前面道路の勾配と館内のスロープ勾配を同勾配とすることにより「表参道」の一体感を表現しており、床石材のテクスチャーも舗道との一体感を持たせているとの事です。ここでの法規上の特徴は、通常、防火区画（堅穴区画）の防火シャッターが通路部分に設置させている必要があるが「全館避難検証法」による性能規定（大臣認定）をクリアさせて店舗部分に設置することにより、館内吹き抜け部分がスッキリとした空間となっていました。しかしながら、各テナント前のスロープの勾配の関係上、その段差の解消がされておらず、入出店時のお客の安全面の配慮が細部までされていたかどうか疑問でありました。他に吹き抜け上部の効果的な照明や特定部分へのピンポイントによる放送設備など最新の設備が余すところなく設置されておりました。

最後の参加者代表からのお礼の際には、「(多少興奮しながら)安藤建築を体感できたことと、この建物が完成するに至る経緯のなかで様々な葛藤があったことなどが直に伺えて大変良かった」との弁でした。



● 表参道ヒルズにて集合写真

講習会終了後の参加者からの「アンケート結果」については、以下原文通りです。

1、講習会内容について

<第1日目>

・難しかった（30%）      ・普通（70%）      ・易しかった（0%）

その理由・・・とても解りやすい解説でした。

- ・4分割法、N値計算、壁量計算を授業で取り入れたいと思います。
- ・実務を基に講話されているので大変勉強になり、身が引きしまる思いでした。
- ・演習より知識がより理解でき深化できました。

<第2日目>

・難しかった（10%）      ・普通（90%）      ・易しかった（0%）

その理由・・・楽しかったです。

- ・たくさんの内容とテーマ毎に話されたのでわかりやすかった
- ・普段立ち入れないところに入れたり、説明を受けられたので良かったです。

## 2、講師の対応

### <第1日目>

- ・良かった (90%) ・普通 (10%)

その理由・・・・たくさんの事例を紹介して下さり有難かったです。  
・大変わかりやすくてよかったです。  
・もっと雑談(裏の話など現場での現状)を聞きたかったです。  
・準備がしっかり整えられていた。  
・丁寧であった。  
・誠実そうな方でした。

### <第2日目>

- ・良かった (90%) ・普通 (10%)

その理由・・・・大変わかりやすくてよかったです。  
・丁寧で親切であった。  
・普通では見られないところが見れて貴重でした。

## 3、今回の講習会について

### <第1日目>

- ・良かった (90%) ・普通 (10%)

その理由・・・・タイトルからは、1日目で済む内容でしたが、2日目は1日目と違う点で自身は満足しました。ご苦労様でした。  
・非常に勉強になりました。

### <第2日目>

- ・良かった (90%) ・普通 (10%)  
・商業スペースの裏側はなかなか体験できないので良かったです。

## 4、今後の法規関係講習会について(希望があれば)

- ・学校で使用できるワークノートも大切ですが、演習問題も作成(各学校からの情報)してもらえればと思います。
- ・続けてもらいたいです。
- ・毎年毎年改正が続く専門的内容も複雑かつ分離されつつあるのでその対応が間に合わず今回の講習で理解できたような気がします。
- ・現場の声(実状)がわかると生徒への進路指導にまた各学校の授業の工夫方法を知りたいです。

今回の研究協議会をとおして、知り得た知識や体験した感動を各学校へ戻られて平素の授業展開に反映していただくことがこの研究協議会開催の趣旨であることであり、それを参加された先生方に期待して本研究協議会の報告とさせていただきます。

### Ⅲ. 平成20年版 建築法規の過去問題集の編集改訂作業について

(詳細：HP掲載済)

- \* 「研究調査による研鑽」として、'基礎的理解を深め発展的学習の教材'に取り組んでおります「20年版 建築法規の過去問題集」の編集改訂作業を継続しておこなないました。今回は、「北陸大会分科会研究協議参加者」および「建築法令指導講習会参加者」に講習会資料の一部としてCD-ROMにおさめデジタルデータで頒布と同時にアンケート用紙を配布しておりますので、次年版への編集改訂へ出来る限り反映させたいと考えております。ご意見等をお寄せ下さいますようお願い致します。

(来年度も分科会研究協議参加者に資料の一部として頒布予定です!!)

### Ⅳ. 平成20年版 建築法規ワークノートの編集改訂作業について

(詳細：HP掲載済)

- \* 「研究調査による研鑽」として、'生徒自らがノート代わりとして手元に置きながら必要事項を整理する'こととして取り組んでおります「20年版 建築法規ワークノート」の編集改訂作業をおこなないました。

先述の「建築法規の過去問題集」同様に「北陸大会分科会研究協議参加者」および「建築法令指導講習会参加者」に講習会資料の一部としてCD-ROMにおさめデジタルデータで頒布をしました。ご意見等をお寄せ下さいますようお願い致します。

(来年度も分科会研究協議参加者に資料の一部として頒布予定です!!)

### Ⅴ. 法改正の動向について (080731 現在)

(詳細：HP掲載済)

昨年6月20日施行の「改正建築基準法」につづいて、12月20日には「改正建築士法」が公布されました。『改正建築基準法』では建築確認の厳格化とあわせて「建築物の規模による構造設計の方法・審査方法等の分類」が見直されました。従前は、「構造計算」に関しては「政令規定」で規模別の規定とされていましたが、改正後は、「法規定」となり審査方法も明確化されました。

裏面の表のように、基準法では規模別に1号建築物から4号建築物に分類されて、一定規模以上のものは「構造計算適合性判定」を要します。さらに21年5月より「構造設計一級建築士と設備設計一級建築士」による法適合証明の義務化がスタートします。また、私共の教材対象として身近な小規模木造住宅である4号建築物においても、従前では一級建築士が設計した場合は、構造関係規定の設計図書の省略が認められていたものが、確認申請時の添付設計図書として要求されることが検討されています。

『改正建築士法』においては「受験資格要件」が見直され生徒の受入態勢やカリキュラム、さらには進路指導にまで大きく影響することとなりました。「受験資格要件」については、国土交通省・(財)建築技術教育普及センター主催のもとに全国の所定会場で説明会がおこなわれました。すでに多くの先生方もご存知のこととは思われますので、とりわけ『建築士制度の見直しの概要』について基本制度部会で取

りまとめられた方向性に沿って以下にお示しいたします。今後、政令・省令・告示等の進捗に伴い若干の変更を含みつつ周知されるため注視しなければなりません。

#### 建築士の資質、能力の向上

##### <定期講習の受講義務づけ>

- ・建築士事務所に所属する建築士に対して、定期講習の受講（3年毎）が義務づけられます。
- ・1日間（6時間程度）の講習となります。5時間程度の講義の後、1時間程度の〇×式の修了考査が実施されます。

##### <講習機関の登録制度の創設>

- ・講習は、国土交通大臣に登録をおこなった機関（登録講習機関）がおこないます。
- ・法令に定める一定の条件を満たせば、公益法人であれ、民間企業であれ登録講習機関となることが可能です。
- ・改正建築士法の施行に先立ち、準備行為として、登録講習機関の登録申請等がおこなえることとなっております。

##### <学歴要件の見直し>

- ・「所定の学科卒業」という従来の要件から「国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めて卒業」という要件に変更されることとなります。
- ・この変更は平成21年度入学生から適用されることとなります。法施行時に既に所定の学科を卒業している方、法施行時に所定の学科に在学中の方については従来の学歴要件が適用されることとなります。

##### <実務要件の見直し>

- ・「建築に関する実務経験」という従来の幅広い実務から、設計・工事監理、建築確認、一定の施工管理等、設計・工事監理に資する実務に限定されます。
- ・この変更は、法施行後に行なわれる実務経験に関し適用されることとなります。なお、法施行時までの実務経験は法施行後も実務経験期間としてカウントされることとなりますので、法施行後の実務経験期間とも合算することが可能です。

##### <専門能力を有する技術者の受験資格見直し>

- ・建築設備士として4年以上の実務経験を有する者に、平成20年の一級建築士試験から受験資格を付与します。

#### 高度な専門能力を有する建築士による構造設計及び設備設計の適正化

##### <構造設計一級建築士／設備設計一級建築士の創設、法適合チェックの義務づけ>

- ・一級建築士として5年以上構造設計／設備設計に従事した後で、講習（構造設



計／設備設計・法適合確認に関する講義・修了考査)を修了した者を構造設計一級建築士、設備設計一級建築士とします。

- ・平成21年5月27日以降に設計される大規模な建築物の構造設計／設備設計については、構造設計一級建築士／設備設計一級建築士の関与(設計又は法適合確認)が義務づけられます。
- ・構造設計一級建築士講習は3日間、設備設計一級建築士講習は4日間となります。それぞれの講習の最終日に、1日間の修了考査が実施されます。
- ・構造計算適合性判定資格者や建築設備士等に関し、講習の一部免除等の措置が講じられます。

<一級建築士試験の見直し>

- ・学科試験に関し、現行の学科Ⅰ(計画)について「計画」と「環境・設備」の2つの科目に分離し、合計5科目とします。具体的な科目及び科目ごとの設問数は、①計画：20問、②環境・設備：20問、③法規：30問、④構造：30問、⑤施工：25問とし、これまでの5択一方式を4択一方式に変更します。
- ・学科試験の試験時間は現在の合計6時間から、1時間程度延長させる予定です。
- ・設計製図試験に関し、現行の設計課題に加え、記述・図的表現等の手段により構造設計や設備設計の基本的な能力を確認する出題をおこないます。
- ・設計製図試験の試験時間を現在の合計5時間30分から、1時間程度延長させる予定です。

## VII. 今後の活動予定

\*今後の活動・取り組みとして以下のものを行う予定です。

### 1、「平成21年版 建築法規の過去問題集」編集改定作業

\*従前の内容は、「建築士試験」の過去問題を対象としていましたが、高校生受験が可能な「二級建築施工管理技術検定(学科：法令関係：建設業法、労働基準法、労働安全衛生法など)」を追加していこうと考えております。

### 2、「平成21年版 建築法規ワークノート」編集改訂作業

### 3、平成21年度総会(埼玉大会)の分科会協議会において、「(仮称)二級建築施工管理技術検定(学科：法令関係)のポイント指導」について講師を招聘し、解



説講義をおこなう予定です。

4、平成21年度総会（埼玉大会）の参加者に「建築法令の改正ポイント」の概要の周知のためにペーパーの頒布し、頻繁に複雑化されていく建築法令への対応のため概要解説をまとめたものを頒布し、教員自らの意識の向上に努めて参りたいと考えております。

#### 5、その他

是非、会員皆様方のご指導・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

## 製図分科会報告

千葉県立東総工業高等学校 小島 聡

これまでに実施した「建築製図指導者研修会」の成果として、初期製図教育の「授業展開例」を北陸大会にて提示いたしました。提示した展開例は、『初期教育の充実』のための1つの提案です。求める知識や技能(教師の立場)と求められる知識や技能(生徒の立場)の乖離(かいり)を埋めるためには、お互いが納得した基準を必要とするはずです。この共通基準の下で、生徒と教師が向かい合い「何ができて」、「何が出来ない」のかを明確にしながら授業を進めることが初期の段階で重要であると考えます。

これまでに実施した「建築製図指導者研修会」の参加者から提出いただいた「建築製図指導資料」から、初期教育に関する内容を取り上げ、『導入期の授業の在り方』を研究し、製図分科会委員による指導案の作成と指導資料の作成を重ね、ここに「授業展開例」を提示いたします。

[この資料は本研究会 (www.geocities.jp/hn\_kkk/) よりDLが可能です。ご確認ください。]

また、今後は『成果確認の場』として、「全国高校生卒業設計コンクール(仮称)」実現の可能性を模索しています。「初期教育」で基礎を固め、卒業時に学習の「成果」を広く校外の生徒と建築専門団体の目から評価を受けることは、生徒にとって大きな励みであり目標となることと思います。各地の建築関連団体による高校生作品の審査会が行われており、いずれの会場でも高校生のレベルの高さに建築のプロ達は驚きの声を発しています。プロ達の受け入れ態勢は十分とはいえませんが、可能性が無いわけではありません。私たち学校側からの積極的な発信さえあれば、可能な事ではないでしょうか!「将来の地域産業を担う人材の育成」のために、私達は積極的に地域の建築関連団体とのコミュニケーションを持つことが大切だと考えます。

今後とも製図分科会の活動にご理解とご支援を頂ければと思います。

### 「第3回 建築科教員のための建築製図指導者研修会」報告

開催日：平成20年3月11日(火)

場 所：学校法人・専門学校 中央工学校

内 容：・「中央校学校主催第2回建築系高校生対象コンペティション」全応募作品見学

#### ・事例発表

製図コンクール課題の指導について 鈴木浩之先生(栃木県立那須清峰高校)

各種コンペ作品応募指導について 竹田 基先生(埼玉県立熊谷工業高校)

卒業設計コンクールへの取り組み指導について

久保晴義先生(宮城県立石巻工業高校)

6年間のコンペ指導を振り返って

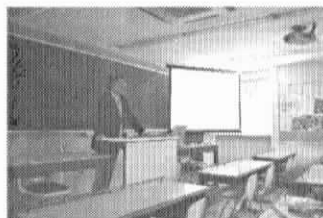
櫻井良明先生(山梨県立甲府工業高校)

#### ・質疑応答

#### ・製図分科会からの報告

#### ・会場校施設見学

参加者：11都県より23名参加(中央工学校教員26名)



## これまでの経緯

第1回 開催日：平成19年11月29日（水）

場 所：関東第一高校

内 容：製図コンクール参加作品閲覧及びコンクール審査基準について

参加者：11都県より24名参加

第2回 開催日：平成19年3月2日（金）

場 所：山梨県立甲府工業高校

内 容：甲府工高実践報告及び生徒作品見学

参加者各校での実践報告

参加者：10都県より19名参加

上記に示すように、これまでに2回の研修会を実施してきました。今回（第3回）の研修会では、中間期の指導として「発想力」の育成に目を向けてみました。1、2年生に限定した中央工学校主催のこのコンペは、まさにこの「発想力」育成の確認の場と位置づけることができます。基礎を身につけ、発想力を育成することにより、「卒業設計」への取り組みが可能になると思います。高校生活の集大成として「卒業設計」に取り組み、達成感と満足感をもって建設業界へ生徒を送り出しましょう。さらに、この卒業設計の評価をプロの建築家達から受けることができれば生徒達は、よりいっそう自信を持って高校を卒業していく事でしょう。

## 参加者の意見

### 1. 作品見学について

ア. 大変参考になった 80%

イ. 参考になった 20%

ウ. どちらでもない

#### 自由記述

- ・様々な学校の作品や制作の手法を見ることが出来て、非常に参考になりました。本校でも、一つでも多くの作品が出せるように指導していきたいと思いました。
- ・全国の優秀作品を目にすることが出来、大変参考になりました。
- ・他校の作品の出来、努力している所が直接拝見できて良かったです。生徒にも多くの作品を見る機会があればと思います。
- ・500枚近い作品を見ることができ、たいへん勉強になった。
- ・他県、他校の取り組みがわかり勉強になった。
- ・生で応募作品を拝見できて良かったです。有難うございました。

### 2. 鈴木先生（那須清峰高）の実践報告について

ア. 大変参考になった 73%

イ. 参考になった 27%

ウ. どちらでもない

#### 自由記述

- ・「ほめて、育てる」 初心に戻れました！
- ・とにかく、ほめるという方針、勉強になりました。  
「ほめちぎる」重要性を認識しました。
- ・競技なのでスポーツの発想を用いる教育が参考になりました。
- ・コンクールに対する姿勢が大切だということを感じました。



- ・基礎基本の指導に大変参考になる点が多くありました。
- ・粘り強い指導が実を結んだと思います。熱意を持ち続けることが大切だと感じました。

### 3. 竹田先生（熊谷工高）の実践報告について

- ア. 大変参考になった 67%
- イ. 参考になった 33%
- ウ. どちらでもない

#### 自由記述

- ・設計条件の読み込み、ストーリー性、総合指導力について勉強になりました。
- ・アイデアだけでなく、プレゼンやレイアウトまで力を入れると言う点は、コミュニケーション、表現力を身に付ける上で大事だと思う。勉強になった。
- ・趣旨から逸れないこと（エスキスにおいて）
- ・時間をかけること、生徒と対話すること、一人一人に向き合うこと、今年はもう少し時間を割きたいと思いました。
- ・生徒に対して正面から向かって指導し、生徒の良さとする気を出させる指導は勉強になりました。
- ・できれば、1作品に絞ってその制作指導過程を教えていただければよかったです。

### 4. 久保先生（石巻工高）の実践報告について

- ア. 大変参考になった 67%
- イ. 参考になった 33%
- ウ. どちらでもない

#### 自由記述

- ・実践的な指名コンペに取り組める環境を生かされていることに感心しました。今後の活躍に期待しています。
- ・生徒の活動が地域に発信されることは学校・生徒共に良いことだと思います。
- ・本当のコンペに参加する機会があることが良い地域だと思います。学生対象だけでなく、もっと目標を高くもっていくことを考えさせられました。
- ・各コンクールの指導時間があり、参考になりました。
- ・コンペを行うに当たって、学校での授業の方針が聞けて良かったです。
- ・人前で発表する事の大切さ、メディアの重要性がわかりました。

### 5. 櫻井先生（甲府工高）の実践報告について

- ア. 大変参考になった 74%
- イ. 参考になった 26%
- ウ. どちらでもない

#### 自由記述

- ・具体的な指導方法についてとても参考になりました。期間の短い中でもプレゼンまで持って行くことがどのようにすればできるのか関心を持ちました。
- ・パワーを感じました。
- ・コンペの実績すごいと思います。経験を積み力を付けます。
- ・教員の“やる気”こそが生徒を引っ張っていくのだろう。
- ・大変勉強になった。コンペのノウハウの1つを理解できた。
- ・自己も楽しみながらトレーニングして、プランニング力をつける必要性
- ・ホームページをいつも拝見しておりました。決してずいぶん昔からコンペに参加していたわけではないことをお聞きし、驚きましたが手を重ね参加しつづけることが大切だということを胸にとめました。

・教員の地道な情報集めが大切だと感じました。

6. その他、ご意見やご感想をお聞かせください。

・今回の発表された学校に於いて、コンペに取り組む以前にどのようにして“基礎製図力”を付けているのかが知りたかったです。本校は、生徒にそういった点から教える必要があると思いますので、是非次回の研修会では、そのようなことも含めて教えていただきたいと思います。

・東日本製図ガンバレ！

・製図コンクールの審査・講評会を見たいのですが、今日のように会をもってもらえればありがたいと思います。どのくらいのレベルなのか、東日本の総会にいつも出られるわけではなく見る機会がありません。お願いします。

・本日は、大変勉強になりました。この機会をつくっていただき感謝しています。またの機会を楽しみにしています。有り難うございました。

・「生徒のやる気を出させる」ことを、コンペ指導を通しての先生方の話からよく理解できました。鈴木先生の「20くらい褒めて、3つくらい注文をつける」というお話が、今の教員に必要なことだとわかったが、実際に自分ができるかどうかとなると？だとも思えた。意識を変える必要がある。

・大変有意義な研修会でした。今後もこのような研修会を企画してください。

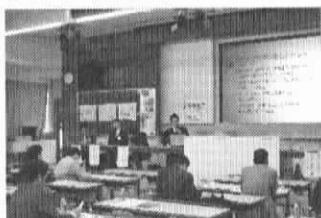
・コンペに力を入れている学校は、やはり教員の方もいろいろとご苦労されていたことがわかり、また、ノウハウも聞くことができ大変良い研修会に参加させていただいたと思います。

・貴重な機会を有り難うございました。

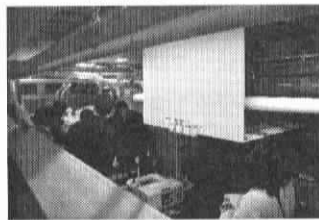
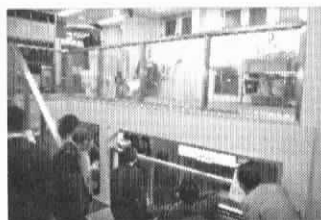
・貴重な話を有り難うございました。初心に戻れました。(コンペに出したくて、教員になった時を思い出しました)

・土木のくくり募集や「クラブ活動が盛ん」など、本校と同じような状況を抱える学校が工夫して設計製図教育に取り組んでいる様子に大変刺激を受けました。

最後に、今回は中央工学校様の全面協力により、全国から集まった創作的意欲あふれる作品を審査前に見学させていただく機会を得られたことは、私たちの今後の指導に大いに役立つことと確信します。生徒達の創作的意欲や発想力は私たちの想像をはるかに超えるものを持っていることが確認できました。また、卒業進級作品や建築設備実験室等の見学もさせていただきました。中央工学校関係者の皆様に感謝申し上げますと共に御礼を申し上げます。



研究協議の様子



建築設備実験室及び卒業作品見学の様子

## 『発想力』の教育を



## 東日本建築教育研が教員向け研修会

建築科のある高等学校約140校で構成する東日本建築教育研究会(能智功会長)は11日、東京都北区の中央工学校で「第3回建築科教員のための建築製図指導者研修会」を開いた。約20人の建築科教員が参加。工業高校の建築系に在学する1、2年生を対象にしたアイデアコンペの応募作品の見学、写真、製図コンクールの指導事例の発表などが行われた。

冒頭、同研究会製図分科会の小島聡主席(千葉県立東総工業高等学校建設科)は、「教師の立場として求める知識や技能と、生徒の立場として求められる知識や技能の乖離を埋めるには、両者が納得した基準を授業の初期段階で明確にすることが重要だ。製図分科会では『初期製図教育の充実』と『成果確認の場』の設定により生徒の能力を伸ばす研究に引き続き取り組んでいくと説明。さらに建築は『白い紙に100通りのものをつくる』と語り、この『発想力』の教育を担っていくと力を込めた。

研修会は、作品見学と事例発表の2部構成。会場には第2回建築系高校生対象コンペティション(主催中央工学校・中央工学校OSAKA)の応募作品452点が一堂に展示され、参加者は生徒の作品を一点一点見学した。事例発表では、製図コンクールやコンペの指導について4人の教諭がこれまでの取り組みを報告し、参加者と活発に意見を交わした。

## 「建築系高校生設計製図講習会」報告

開催日：平成20年7月25・26日(金・土)

場所：学校法人・中央工学校 「南ヶ丘倶楽部」

内容：第1日目 ・開講式

・「南ヶ丘倶楽部」施設見学

茶苑(南眺)、茶室「大庵」、千ヶ滝(能舞台)、三五荘資料館

・第2回建築系高校生対象コンペティション「音楽のある軽井沢生活」

入賞作品見学及び概要説明

・夕食

・講話：プロポーザルコンペの経験 (中央工学校 山田和則先生)

・フィールドワーク準備

第2日目 ・朝食

・石の教会・内村鑑三記念堂(設計：ケンドリック・B・ケロック)見学

・班別行動によるフィールドワーク1

・昼食(バーベキュー)

・判別行動によるフィールドワーク2

・閉講式

参加者：1都2県より生徒26名、教員5名参加



## これまでの経緯

- 第1回 開催日：平成 19 年 11 月 29 日（水）  
場 所：関東第一高校  
内 容：製図コンクール参加作品閲覧及びコンクール審査基準について  
参加者：11 都県より 24 名参加
- 第2回 開催日：平成 19 年 3 月 2 日（金）  
場 所：山梨県立甲府工業高校  
内 容：甲府工高実践報告及び生徒作品見学  
参加者各校での実践報告  
参加者：10 都県より 19 名参加
- 第3回 開催日：平成 20 年 3 月 11 日（火）  
場 所：中央工学校  
内 容：中央工学校主催 第 2 回建築系高校生対象コンペティション全応募作品見学  
指導事例発表（4 校の事例発表）  
製図分科会からの報告  
会場校施設見学（設備実習室見学）  
参加者：11 都県より 23 名参加（その他中央工学校教員 26 名参加）

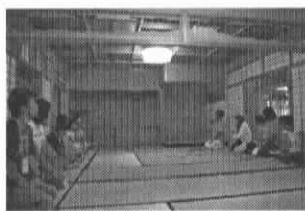
上記に示すように、これまでに3回の教員対象の研修会を実施してきました。今回は、生徒を対象に設計製図講習会の名の下に、フィールドワークの手法を体験すると共に、他校生徒との交流を通して設計イメージの深化を図ることを目的に実施いたしました。

美味しい料理を食べたことのない人は、料理人にはなれない。「建築も同じなんだよ』『いい建築を体験したことがないと、腕のたつ建築家にはなれないよね、きっと』。料理のレシピは絵や写真だけじゃないだろう！コンセプト、説明、そして材料の量や調理の手順を簡単なことばで書くよね！ 建築も同じで、スケッチやドローイングだけではレシピは書けないんだ。ことばも大切なんだよ！（建築家 宇野求 談）

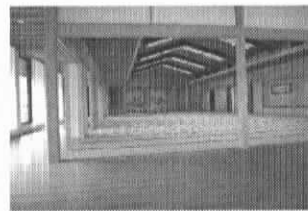
今回の研修会では、南ヶ丘倶楽部の協力により大変素晴らしい日本建築の数々を見学させていただきました。スケッチブックを取り出し、スケッチを始める生徒の姿に触発され多くの生徒達がスケッチやメモを取る姿に、知的好奇心の刺激がいかに大切かを改めて感じ取る場面もありました。また、この研修会で知り合った他校の生徒達とも学年を問わずに交流し、意見を交わした経験は今後の活動に多いに生かされることと思います。いい建築を体験される仕掛けを仕組むことが教師の仕事ではないでしょうか。是非、次年度以降の定例開催が出来るよう準備を進めたいと思っています。



開講式



施設見学（茶苑「南暁」）



施設見学（能舞台「千ヶ滝」）

## 参加者の感想

■今回参加した理由は、誰もが魅了されてしまう軽井沢に以前から興味があり、学習をしに行くというより小旅行へ行くような軽い気持ちで参加を決めました。しかし当日、千葉を出発してから、これから出会う知らない人たちと上手く交流できるのか、人見知りの私は不安になりました。

軽井沢なんて、テニスコートと森ばかりのところだと思っていたのに、道路は交通量があるし、大きなショッピングモールには人がうじゃうじゃいて、私の想像とはかけ離れていました。到着して早速、ざっくり班が二つに分けられて、敷地内の見学が始まりました。知っている人が一人もいなくて、他校の人は自分の学校にいる人と雰囲気が違うし、しかも女子が私一人だけで、とても心細かったです。出だしからこんな状況で、動揺していた私は、まともに先生の説明も聞けないほどでした。家の中の見学が始まり、辺りを見回すと沢山仕掛けがあったり、茶室の中に入れたり、体験することで色んなことが発見できました。蔵前工業の先生が、沢山の知識をもって面白い話を沢山してくれました。

二日目の班行動で徐々に他校の人と話をし、色んなところを回って打ち解けてきたころ、もう解散の時間でした。正直、ここに来るまでは、学校で建築の勉強をしながらも、すごく好きというわけではなく、自分の進路に迷いを感じていました。でも、軽井沢で考え方が変わりました。自分たちで建物を見に走り回ったり、入賞作品を見たり、他校の人、先生と話し、すごく刺激を受けました。同じ建築を勉強している人が、こんな想いでやっているんだ、すごく楽しそうで、私まで楽しくなりました。どうしてかわからないけど、もっと建築に携わる人と交流したくなって、コンペも参加したくなりました。

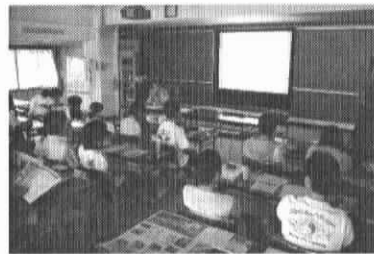
今回参加できて、考えが変わるなんて思ってもいなかったので、本当に良かったです。同じ学校の人とも仲良く楽しかったし、短い時間でちょっとしか話せなかった人もいたけど、またどこかで会えたらいいなと思いました。軽井沢で出会った建物もすばらしく、石の教会には圧倒されました。作文では、書ききれないけど、内容の濃い体験だったと思います。

講習会を通して得たものが、私のこの夏の宝物です。本当にありがとうございました。(3年 女子)

■この設計製図講習会に参加して、今更ながら建築のすばらしさについて知ることができた。そして、建築に対する考えも変わった。私は、高校に入学した時から、建築科に入ったのに然程興味が湧くこともなくこの二年半過ごしてきた。でも、今回の講習会でその二年半分の感動を味わえた気がする。特に、石の教会は心から素晴らしいと思えた。今までも、数々の著名人が設計した物はWEBサイトや雑誌など平面上でたくさん見てきたが、これほどまでに建築として感動することはなかった。自分の目で、手で、触れて、見て。匂いや空気を体で感じて、存在を確認することで平面では感じ取れないいろいろなものを知ることができた。建築がこんなに素晴らしいものだとは思わなかった。

また、これと同時に、どんな仕事に就くにも必要な人間関係についても学ぶことができた。違う学校の人と組むことによってわかる行動や発言。他人への対応や態度。知らない人と会話をし、仕事をこなすことなんて社会人になればいくらでもあることなのに、班や部屋割りが同じ高校の奴等と違うというだけで、行きの車の中で臆病になっていた自分が馬鹿らしく思えた。これからの生活で、臨機応変の似合う人にならなければいけないと思った。

この講習会を通して、わたしの建築に対する考えは変わった。当初この講習会での私の本来の目的は、進学への参考にする程度のものであった。しかし、実際に体験して、建築に対する考え方がかわる程の大





きなものを手に入れることができた。意識が変わった今、この素晴らしさをより多くの人に知ってほしいと思っている。そして、私自身進学への道がまた大きく広がって嬉しかった。

最後に、この講習会で良い体験をできて、本当に良かったと思っている。お誘いくださった林先生を始め、多くの先生方には感謝しきれない。本当に楽しかった。(3年 女子)

- 今回初めて講習会に参加して軽井沢には独特の雰囲気がありたくさんの人がこの地に引かれる理由がわかるような気がしました。言葉にはできないパワーがこの地にはあり、都会のざわめきが無く非常に懐かしい気持ちにしてくれました。この講習会はコンペ強化合宿がテーマでしたが私は前回の中央工学校のコンペに出展しました。でも軽井沢に行ったことが無くこの土地の良いところを上手く表現出来ませんでした。もし、昨年もこういう機会があったらまた別のイメージがあったかもしれません。

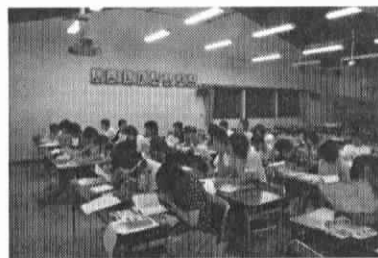
軽井沢にはたくさんの魅力的な建築物がたくさんあります。どれも印象深く残っています。例えば三五荘は日本昔ながらの造りで存在感に圧倒されます。内部空間はというとまるでタイムスリップしたかのような落ち着いた空間で屋根の構造には驚かされました。又懐かしさの中にも現代化がありドアのひとつがその例だと思います。三五荘以外にも初日は茶室「大庵」を見させてもらい日本建築の奥深さを味わい、見えないところまで大事にする文化やなぐりの手法、飛び石の配置や「深三畳台目席」といったことも学びました。



軽井沢の良いところのひとつに、「和」と「洋」の文化があり、「洋」の代表的な建築物として教会が挙げられると思います。2日目のフィールドワークの時に行った「石の教会」は軽井沢の建築物の中でも特に印象に残っています。教会まで行く道は石を積み上げられていて奥に行くほど涼しくなり教会の内部の階段に太陽の光が降り注ぎ上がっていくに従って鳥肌がたってしまうほど感動しました。しかし、ここまではこの空間に案内するための入り口であって聖堂の中はもっと感動する空間でした。石から水が流れ落ちる音や大地と建築物が一体になっている感じがしました。写真ではわからないこのような体験ができて本当に良かったと思います。「美味しい料理を食べたことが無い人には、美味しい料理は作れない。」先生が言ったこの言葉を忘れないようにしていきたいです。建築を学び始めた自分たちにとって「本物」を見ることはすごく大事だと思いました。今回の講習会では聞いたり、見たりするよりも大事なその空間を体験する事ができました。三年生なのでコンペには参加できませんが軽井沢で吸収したものを生かして今後役に立たせたいと思いました。こういう機会を与えてくださいました先生方や中央工学校関係者の皆さん、ありがとうございました。(3年 女子)

- 軽井沢の講習会に参加して学んだことが沢山ありました。自分が出展した軽井沢コンペの優秀賞や最優秀賞を取った人たちの作品を実際見て、一目見た感じから違った。設計趣旨を読むと、自分では考えられないようなことばかり書かれていた。表現の仕方も違っただし、全てにおいて凄かった。

軽井沢の街を散策したときに見た建物は、地元では見ることのない建物ばかりでした。あの建物は、「軽井沢」という場所だから成り立っているんだなと思いました。軽井沢で過ごした二日間の経験をこれからの作品(卒業設



計)に十分生かせたらと思います。そして、もっといろんな建物や街並みを写真や映像でなく、直接自分の目で見て感じたいと強く思うようになりました。(3年 女子)

- 僕は、今回初めて軽井沢に行きました。軽沢に着くとまず、周りに広がる自然にビックリしました。東京や千葉といった首都圏では考えられないほどの緑があり、日射しは強かったのですが全然暑さを感じることはありませんでした。また、2日目のフィールドワークでは、石の教会やクリークガーデンといった様々な建築物を散策しました。軽井沢の建物はどれも自然と一体化したようなものが多く、自然を大切にしている感じがしました。しかし、そんな中であっても自然に埋もれずに目に止まるよ



うな色使いをされていてすごかったです。構造も色々なものがあり、光の取り入れや空間の使い方などとてもためになりました。研修所の中では歴代の受賞作品を見せてもらい、それぞれ色々な工夫やデザインを見ることが出来、友達同士で研鑽することができました。

今回の研修会を通して、今まで考えつかないようなアイデアや建築物を見るとき視点など様々な事を学ぶことが出来ました。また、他校の人たちとも交流を深めることも出来ました。この研修で学んだことを残りの学校生活、又今後の大学での授業等で活かせるようにしていきたいと思います。

(3年 男子)

- 僕は、軽井沢に始めて行きとてもびっくりしました。周りを見た感じでは、大自然が広がっており神秘的な感じがしました。都会と違ってとても涼しかったです。今回、講習会に参加して普段じゃ絶対見られないような建築物をいっぱい見ることが出来ました。大自然と建築物がみごとに一体化していました。見所は建築物以外でもありました。様々なコンペの優秀作品を間近に見ることが出来、とても勉強になりました。コンペで最優秀賞を獲得したことのある先生からのお話など、色々貴重な体験をさせてもらいました。もう一つこの講習会で学んだことは、友達や先生からの意見を取り入れることです。まず他人と良い関わりを持ち、意見の言い合える関係になればいいと思いました。



今回、軽井沢に参加して本当に良かったです。自分に新しいものを発見できたと思います。まだ見ていない建築物とかいっぱいあるので、また機会があったら行ってみたいです。(3年 男子)

- 最初、他の学校の人たちとも交流があると聞きましたが、基本的に学校毎で行動するものだと思っていたので、部屋も班もバラバラでびっくりしました。それに、知らない人たちと仲良くなれるかすごく不安でした。でもすぐに打ち解け合い、とても楽しかったです。



今回のイベントに参加して一番よかったのは、他の学校の人たちと交流出来たことだと思います。みんながどんな風に考え設計しているのかや、実際の方法など色々な情報が交換できてとてもよかったです。そして、軽井沢にある有名な建築物も見学できてとても楽しかったです。一番印象に残っているのが「石の教会」で、実際に自分の目でみるととても感動しました。他にも

色々な建築物を見学できてとてもいい経験が出来ました。

この軽井沢での経験をこの先に活かして、良い作品を創って行きたいです。(3年 男子)

- 今回中央工学校の講習会に参加して、色々なことが勉強になったし、とても楽しく過ごすことができました。特に皆で行った石の教会は建物の作りも石をうまく使って芸術的に作られていたし、教会までの道が石できていたりなど、まるで日本じゃないみたいなどころでとても感動しました。それと、南ヶ丘倶楽部にあった茶室もすごい感動しました。枯山水の庭や、千利休の茶室、日の出を表現した欄間などまさに和風って感じの建物で見ていてとても楽しかったです。その上軽井沢は涼しくすごしやすいかつし他校の人とも親しみやすくて今回の軽井沢での勉強は、自分にとってとてもためになったと思うので、是非これからの勉強や実習に役立てたいと思います。(2年 男子)



- 軽井沢を車で通った事はあったが、泊まったこと、自然に触れられたのは今回が初めてだ。茶苑「南暁」が一番印象的。近頃の家は洋風の方が多い。そんな中、私の家はもう90年以上経つ和風の家だ。少しばかり作りが似ている気がした。だから印象的なのだろう。茶苑は何故かその場に居るだけで癒された。1日目は、主に研修所施設の見学だったが、興味が湧きずっと見ていたかった。次の日は班別行動ということもあり、気分が晴々と・・・のはすが、班に女子が1人という事を知り、不安で仕方がなかった。

みんなは普通に話しかけてくれたのだが、孤独感が強くあまり笑えなかった気がする。2日目は少し憂鬱な気分になりながらも班のみんなの所へ行った。今日の移動手段は自転車。1人で景色を楽しみながら自転車を走らせていたのだが、班の人が話しかけてくれ少し緊張が解けた。始めにチャーチストリートの屋根を見た。お店がズラリと並んでいて、1人が冗談を言い凄く笑ってしまった。そこから緊張も何もなくなり普通に話すことが出来た。今でもその冗談を忘れてはいない。笑。その後、ショッピングを楽しんだ。可愛い小物を大人買いしてしまった。そこで午前は終わりお昼になった。バーベキューだった。「一緒に」と誘ってくれたのに、断ってしまった。断らなければよかった。ごめんなさい。食べ終わって、大自然の中でバドミントンをやった。大好きなバドミントンを空気がおいしい所で出来て私は幸せだと思った。午後は、お土産屋さんを探し走り回った。私はお土産を買いすぎ周りに持ってもらう始末。ごめんなさい。次にニューウエストに行った。私は満足気に外を眺めていた。この先、「こんなに自然に触れられることはあるのか」と疑問に思ってしまうくらいだ。帰り際、本当にこの班で良かったと思えた。この班だから、こんなに笑えたんだと。少しでも憂鬱な気持ちになった私は何だったのだろう。ありがとう、班の皆さん！

最後に、私は自分の家を誇りに思う。築90年以上ということもあり、多少は耐震に問題があるかと思う。だから私は、自分の家をそっくりそのままに復元したいと思う。今度は私の図面で。色々なコンペに応募し、少しでも建築について深く学べたらと思う。(2年 女子)

- 今回初めて行ったこのコンペ合宿では軽井沢・旧軽井沢の色々なところを回りました。1泊2日での合宿で、1日目は到着したのが午後だったので、研修所の敷地内にある建物を色々で見学しました。まず最初に、三五荘という建物を見ました。その建物は国の登録文化財というだけあって、とても内装がきれいでした。外観からではこの美しさは分らないだろうと思いました。次に美術館と茶室に行

きました。そこに行き、人に教わらないと分らないような事ばかり教えていただきました。その日はその3つを見た後、夕食をとり、お風呂に入って寝ました。

2日目は、朝早く起きて、昨晚決めた班で軽井沢にある有名な建物を見て回りました。最初の建物は合宿に来ている全員で石の教会に行きました。中を見て、これなら結婚式の予約がほとんど途絶えないという言葉の意味がよく分かりました。石の教会を見た後は、それぞれの班で先日決めた場所を見て回りました。今回の合宿が終わって、「自分も後世に残るような建物を設計してみたいと思いました。」(2年 男子)

- 1泊2日の希望者設計コンペ合宿の体験は、あまり知らない土地での初めて会った人たちとの勉強・学校が違う先生からの建築の勉強・・・普段と違い自分の高校生活の中でとても大きな体験となりました。女子が少ない中での参加でしたが、他の学校の人たちとの交流や3年生の人たちの昨年のコンペの話などは、今年初めてやる私にとって、とてもよい情報ばかりでした。軽井沢の町をみることも普段の旅行のような目的と違い、じっくりと建築物を見ることができました。どの建築物も見ただけではあまりわかりませんでしたが担当の先生の話しをしっかりと聞くことで建物自体の構造や建てた人の気持ちがわかったような気がしました。この短いコンペ合宿でしたが、これからの私の軽井沢コンペの大きな体験になったと思います。行っていない人より肌で感じた軽井沢の地形・気候・夜空・周りの建物・町のお店・・・これはコンペに大きく生かしていける部分になったと思います。

この体験で学んだことを取り入れていきなおかつ小沢先生から良いアドバイスを受け軽井沢のよいところを全面にいかしていけるような作品を仕上げていきたいと思っていますので、全力で満足のできる作品を作ってみます。貴重な体験をありがとうございました。来年もぜひ参加したいと思っていますのでよろしく願いいたします。(2年 女子)

- 自分たち7人は7月25日池袋から高速バスに乗り、約3時間かけて軽井沢に向かいました。軽井沢のミニストップで昼食を済ませて、歩いて研修所に行きました。日差しは強いなを思いましたが、風がためたく気持ち良い気候でした。研修所について他の学校人たちと混ざったのは緊張しました。その日に見た茶室がある家と、100畳の能の舞台がある部屋に感動してたくさん写真を撮ったのを覚えています。夜は風呂に2回入ったり、7人でロビーでワイウウしたり、先生と俺と友達で語りました。まあ寝たのは3時です。部屋は最大8人も寝れるように両サイドにベッドがあるのがカッコよくてカーテンでくざれるのが良いなと思いました。まあ自分はわざわざ畳で寝ました。夜はホントに静かですすしかったです。まあ普通にクーラーを使いました。星がキレイらしいので楽しみにしていましたが、生憎曇りだったので全然見ることはできませんでした。

翌日6時半くらいには目が覚めて友達を起こして朝風呂に行きました。そして朝食です。量が多くて全部食べられませんでした、おいしかったです。前の日の夕食もおいしかったです。この日は班行動でした。教会を見たり、なんか古い家を見たり、アウトレットに行ったり、軽井沢銀座に行ったりと少しは軽井沢がどういう所か分かった気がします。あのコケよく見ておけ、軽井沢らしいんだぞと小沢先生がコケを絶賛していました。石垣に付いているコケをしまいには班のカメラを持っている全員にコケが写るように撮らせてきました。結果、キレイで良い写真を撮ることができました。お昼は研修所の施設内でバーベキューをしました。多分学校ごとにバラバラになって自分たちは気持ち悪いほどバイテンションでバーベキューをしました。めっちゃ食べました。他の班の食べきれなかったお肉に手を出した程です。きっと他の学校の方々に退かれたことでしょう。ところが他の学校の先

生に元気で良いですね。とほめられたことを覚えています。自分の班には同じ学校の友達がいなかったんですが、みんな仲良く色々見て回れて、最後には全員で連絡先を交換しました。1日という短い時間というのが残念でしたが、バスの時刻に乗り遅れた友達も軽井沢に来ることができたし、新しい友達もできたし、キレイな空気吸い放題だったし、なにより仲良しな7人で1泊2日できた事が良かったです。小沢先生を初めたくさんの先生方、中央工の方、とてもためになった2日間だったと思います。お世話様でした。(2年 男子)

- 短い2日間だったけど軽井沢を見たものはすごく新鮮でした。(2年 男子)
- 軽井沢をネットで見てきましたが、実際に現地へ行ったら、空気の軽さや涼しさや自然の美しさを肌で感じる事ができ、軽井沢のコンペを取り組む準備として大きな収穫であった。(2年 男子)
- 共通の趣味や興味を持った仲間と出会い、楽しく過ごせたのが良かった。コンペを頑張ってたまたま再会が出来たらいいと思う。(2年 男子)
- 仲良くなった頃に終わりが近づき少し寂しいなとも思いましたが、とても良い思い出です。(2年 男子)
- コンペ案のプレゼンが聞けてよかった。(2年 男子)
- スケッチが面白かった。(2年 男子)
- 宿泊日数を2泊3日でもよいと思います。(2年 男子)
- サイクリングを少し減らして、班で簡単な設計課題を行ったらどうか。(2年 男子)
- 2日目の班行動時、昼食のために戻る時間ももったいなく感じた。(2年 男子)
- 先生方の建築のリアルな話はとてもためになりました。もう少し色々な先生方の仕事の話や仕事をしてみなくては分からない建築業界の彼等など深い話が聞けたらよかったかなと思います。(2年 男子)
- 軽井沢の自然に触れ次の軽井沢コンペのイメージも湧きとても実の詰まった二日間になりました。  
(2年 男子)
- 二日間という時間はあまりにも短く仲良くなりだしたら終了してしまい、もう少し長かったらと思ってしまいます。(2年 男子)
- 色々な建築を見学しとても感動しました。(2年 男子)
- 今回の企画は、他校の生徒や教員との交流・軽井沢でのフィールドワーク・三五荘など施設の見学など、みな生徒たちにとっては初めての体験で新鮮かつ緊張感のあるものだったようです。今回参加した生徒たちは、各校とも建築設計に対して意欲的であり、また能力的もすぐれている者のみでしたので、お互いにより刺激になったことと思います。また、非常に楽しそうだったのが印象的でした。  
引率して感じたことは、まとめの時間が欲しかったことです。来年度以降は1泊増やすか、あるいは後日東京周辺で事後学習の機会が取ればよりよい研修となると思います。(引率教員)

急な企画で、暗中模索の実施であった。しかし、現地に集まった生徒達を見るとそれまでの不安も吹き飛び、参加生徒からは十分な満足感を示す感想を聞き、今回の研修会を無事終えることが出来ました。今後は、生徒の研修活動を支援する体制と研修内容を整備すると共に、指導者の育成に寄与できるよう製図分科会委員一同研究を深めたいと思います。皆さんからの忌憚のないご意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。最後に、今回は南ヶ丘倶楽部の全面協力により、価値ある建物を見学させていただく機会を得られたことは、生徒たちの今後に大いに役立つことと確信します。知的好奇心を刺激された生徒達は、より創作意欲や発想力を駆り立て活躍することと思います。南ヶ丘倶楽部関係者の皆様にご感謝申し上げますと共に御礼を申し上げます。今後ともご支援ご協力いただければ幸いです

## 第58回 東日本建築教育研究会北陸大会 製図分科会研究協議 報告

平成20年7月31日(木)

発表者：栃木県立今市工業高等学校

建設工学科 鈴木浩之 先生

内容：「第26回全国高校生建築製図コンクールへの取り組み」(那須清峰高校での実践)

### 1. はじめに

製図コンクールへの取り組みにとって重要視することは、「教師のやる気」である。生徒がどれだけ高い能力を秘めていても、またその逆でも、それは携わる教師の対応でどのようにでも変化するからである。今回の取り組みでは、1年生に下記課題より、【課題1】に取り組みせながら、『徹底的に褒める』というスタイルで生徒と向き合ってみた。

### 2. コンクール概要

全国の建築関連学科の生徒を対象としたコンクールで課題は、次のように分類されている。(平成20年度)

- ・軒先マワリ詳細図【課題1】(模写)
- ・木造【課題2】(模写一部自由設計)
- ・木造2階建専用住宅【課題3】(自由設計)
- ・木造平家建専用住宅【課題4】(CAD製図)
- ・木造2階建専用住宅【課題5】(プレゼンテーション)

【課題1】の詳細

「軒先マワリ詳細図」

要求図面：「建築設計製図」(実教出版社刊)

製図例1-6 軒先マワリ詳細図 尺度1:5

応募学年：全日制定時制共通1、2学年

注意事項：

- ・線種、太さの使い分けが明瞭で力強く描く
- ・線にむらがなく文字、図形の形状を正確に
- ・文字や数字のテンプレート及びワープロを活用した文字を用いた場合は失格とする。

(一部省略)

### 3. 指導日程

4月：40名全員に描かせ、20名を選考する。

※製図の上手い下手のみだけでなく、授業や放課

後の取り組み姿勢等、課題に対する「やる気」を十分考慮して選考する。

5月：20名から10名を選考する。

※選考した生徒の、文字が線どちらか上手に描けている方を徹底的に伸ばさせることを心がける。

6月：10名を夏休み前までに2名にする。

※選考する2名は、夏休みに部活動、他の資格試験の補習、恋愛等に力を入れる者は対象から外す。また、そのような生徒が希望した場合には、本人によく理解させた上で辞退させる。

上記指導期間中の注意

- 1) 選考されなかった生徒が、残留を希望する場合には、基本的には受け入れて努力させる。
- 2) 選考した生徒に対しては、徹底的に「褒める」ことを心がける。
  - ①個別・全体で大袈裟に褒める。
  - ②作品は廊下等に写真入りで掲示。
  - ③ポスターを作成して教室内に貼る。
  - ④家庭連絡をして家庭でも激励してもらう。
  - ④他教師にも声をかけ、さまざまな場所で褒めてもらう。
- 3) 生徒の挫折を想定範囲内として必ず回復せる。

### 4. 結果

全国建築製図コンクール(課題1)

『軒先廻り詳細図』 縮尺1:5

金賞 建設工学科 1年 渡邊美佳

銀賞1 建設工学科 1年 横田貴大

※銀賞には1~3位の順がつく

### 5. まとめ

当初は「入選できればよい」というのが本音だった。しかし、確実に生徒を入選させるために生徒に課した目標は、「ぶっちぎりの金」だった。目標を最高に高くすることで、入選を確実に掴み取ろうという狙いがあった。結果は、応募した生徒の素晴らしい能力と最後まで努力する心が実を結び、前述の通りとなった。「生徒は計り知れない能力を秘めている」ということを確信でき、私自身にとっても素晴らしい経験となった。



## 参加者の感想

●ダントツの金賞を受賞するまでの成長過程記録を、実際に金賞を受賞した『生徒の作品集（ポートフォリオ）』を持参しての発表でした。製図の道具、描き方の指導方法についてのポイントは3点ありました。

### 1. 製図用具・道具を使いこなせるようにする。

これは、製図見本用紙を配布して、生徒に寸法線や、引き出し線の長さ、図枠線から図の外形線までの長さなど全ての長さを、ドラフターを使用して測らせ、記入するという方法でした。

### 2. 実物を見せる。

見本の図の中で、初心者に分かりにくい部材は実物を見せ、分かりにくい部分は、どの部分なのか実際の場所を見せるということでした。そして、一番重要なことは、「個人作品集（ポートフォリオ）」でした。生徒の製図作品を最初から最後まで成長過程が一目でわかる「ポートフォリオ」による指導方法。これは、生徒と教師がお互いに目で確認できる指導方法です。さらに、多くの教師や、家族の協力も得て、褒めながら、作品のチェックをしてもらうということでした。

### 3. 指導時のポイント

まず、製図初心者の生徒たちへ与えたコンクールの目標は高く！「ぶっちぎりの金賞」を目指す指導からのスタートでした。そこで、重要なポイントは、「製図力」ではなく、「やる気」でした。生徒の「やる気」もさることながら、それ以上に教師の「やる気」が重要で、「やる気」を引き出す為の「やる気」の持続力が重要ということでした。

結果は、「金賞、銀賞」の好成績、目標達成！でした。

発表者の鈴木先生も、先輩教師の後押しがあり「師」についていくことからのスタートしていました。やはり、最後まで「信頼した師」についていくことが、高い目標を達成できる！「技」のひとつかもしれない。と思いました。

また、生徒たちが「師」についていくための手段としては、どんなことでも「褒める」こと！それも、具体的な内容を、大袈裟に褒める！ということが、生徒の「やる気」を持続させる重要な鍵でした。なかなか、人を褒めるのは難しいですが、どんな小さなことでも構わないので褒めることによって、「無限の育つ力」を引き伸ばしていきます。



「教える力」には限界があるが「育つ力」は無数の可能性を秘めているので、「育つ力」をいかに引き出し、引き伸ばすかが教師の腕の見せ所といえそうです。

以上の内容は分かっていながらも、実行できない、実行しない…のではなく教師も強い「やる気」を出さなければいけない。と感じさせられました。

## 研究協議を終えて

製図分科会では、昨年に引き続き「建築製図のあり方と評価のポイント2」というテーマで研究協議を行いました。分科会から木造平屋住宅の断面図・立面図の授業展開例と評価ポイントを提案しました。また、授業実践報告として、栃木県立今市工業高校の鈴木先生を発表者に迎え、「全国高校生建築製図コンクールへの取り組み」について発表していただきました。「ぶっちぎりの金!」「金賞を取らせるために徹底してやる!」を目標に取り組み、昨年度、製図コンクール「課題1」で見事に上位(金銀)を独占。その指導過程を細かく発表していただきました。発表の中でキーワードになったのが「褒めて指導する」「褒めて伸ばす」という言葉でした。とかく教員は悪い点を指摘する指導に重点を置いてしまいがちですが、指導の原点を見直させてもらった発表内容でした。分科会の中では、活発な意見交換はありませんでしたが、分科会終了後や教育懇談会において、製図分科会に参加された先生方から「初心に戻れました!」「熱意を持って指導することの大切さを再認識しました!」等、多くの意見をいただきました。また、鈴木先生が持参された生徒の作品経過ファイル(ポートフォリオ)には、指導過程とともに生徒の成長が記録されており、参加された多くの先生方が熱心に見学されていたのが、とても印象的でした。

静岡大会、岩手大会につづき今大会も30名以上の参加があり、製図指導に対する興味の深さが感じられた研究協議会でした。  
(副主査 吉城 守)

## 解 説

「ポートフォリオ」とは紙バサミのことで、クリアファイルにその人の「宝物(仕事の成果等)」や「自慢の品(表彰状の写真等)」をファイルしていき本人の「持ち味」をビジュアルにアピールできるようにしたものです。

### (1) 「ポートフォリオ」の目的と効果

設計製図や課題研究又は設計コンペ等の学習時間の中で、生徒たち自身の「ポートフォリオ」を作っていくという作業を通じて、

- ・生徒たち一人ひとりが「自分のいいところをしっかり見つけ出し、把握する」ことにより、「自分を好きになれる」そして「自信を持てる」
- ・就職試験や入学試験の面接で、ビジュアルにわかり易く自分をアピールできる。

### (2) 「元ポートフォリオ」と「凝縮ポートフォリオ」

- ・「ポートフォリオ」とは「紙バサミ」のこと。「情報の収集」と「判断・制作」は同時にしていけないという成功戦略のセオリーから。情報素材をとにかく時系列で一元化した「元ポートフォリオ」

・“大事なことは何なのか”を見極め、再構築して、「凝縮ポートフォリオ」を作る。

・テーマ、理由(なぜ)、アクションプラン、自己評価(モチベーション)、途中メモ、成果というような内容をポートフォリオに入れていく。

### (3) アピール&メッセージ

- ・「自己を表現していいんだ!知らせなきゃ始まらないでしょ」
- ・「さあ、プレゼンテーションを!」
- ・ネットワークの時代は協働の時代であり、自己アピールが上手くできないと「コアコンピタンス」を活かしあえるプロジェクトチームが組めないでしょ。
- ・評価をあてにして学習をしてはいけない。それは「学習/知の世界」に失礼だ。評価されるから学ぶ、期待されるから勉強する、は哀しいでしょ!
- ・生徒たちに達成感を味あわせることが重要
- ・「評価」より有効なもの、それは「達成感!」それは夢を叶えたい、成長したいという志し
- ・個性を生かせる=A0入試(アドミッション・オフィス制度)へも!



・ポートフォリオは未来へのパスポート！

ポートフォリオを見ると自分の成長が客観的に掴めます。また「目標」と「成果」を照らし合わせ、自分自身で「評価」できることに価値があります。「他人」と比べるのではなく、「昨日の自分」と「今日

の自分」を比べると、知識が増えたり、いろいろな考え方が出来るようになっていく自分を発見します。

「ああ人間（私）って成長するものなのね！」と嬉しくなりさらなる成長欲が湧いてきます、また得意や個性も発見できます。

(参考) : 鈴木敏恵 (すずきとしえ) / 未来教育デザイナー / 一級建築士

ポートフォリオ概要 <http://www.suzuki-toshie.net/portf.html>

### 今後の取り組み

製図分科会では、全国の建築系高校生を対象に「卒業設計コンクール」実施の可能性を模索しています。日本建築学会の卒業設計展ではなく、宮城県 (ARCHITECT STADIUM 卒業設計展) や千葉県 (千葉県建築学生賞) では、高校生が自分の作品の前にプロの建築家達が審査員をつ

とめる会場で生のプレゼンテーションを行っています。残念ながら多くの学校では、「卒業設計」作品の制作が出来ない！との声が聞こえてきますが、視点を変え大学や専門学校が主催する設計コンペのように1枚のプレゼンテーション用紙にまとめる事であれば可能なのではないのでしょうか？出来ないことを議論するのではなく、できる方法を探りたいと考えています。

つきましては、みなさんの周りで実施している(実施された)コンペやコンクール(作品展)・卒業設計展などの要項とその結果(受賞者一覧や作品写真など)をご提供いただければと思います。集まったデータをもとにさらなる可能性を探っていく予定です。

### 第20回 千葉県建築学生賞

2008/3/16 (日)

「千葉県高校生卒業設計コンクール2008」 受賞結果

- 金賞 「おひささんといしょ」  
千葉県立市川工業高等学校 建築科 飯泉 元気
- 銀賞 「おらが名産 千葉のビーナッツ」  
千葉県立京葉工業高等学校 建築科 下野村 和彦  
小野塚 和彦  
佐藤 建太
- 銅賞 「Last's enjoy roadtrip」  
千葉県立市川工業高等学校 建築科 藤原 雅之
- 銅賞 「体育館 ～全ての人に輝ける体育館～」  
千葉県立市川工業高等学校 建築科 松本 拓太
- 銅賞 「光が出迎える家」  
千葉県立東総工業高等学校 建築科 佐久間 亜介



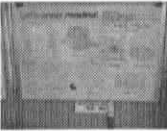
会場の様子



金賞作品



銀賞作品



銅賞作品



審査風景  
審査員を前に堂々とコンセプトを発表し、もう少しで、入学生と勝負できるご評価を受けた生徒もいました。



授賞式  
今後の皆さんのさらなる活躍を期待しています。



# 構造分科会報告

神奈川県立神奈川工業高等学校 高橋 裕

岩手大会以降の取り組みを、ここにご報告させていただきます。

## 第4回分科会

1. 日時：平成19年10月16日(月)

2. 会場：都立墨田工業高校

3. 内容

### ①「建築構造設計」補助教材の検討

- ・ 次回の分科会で、JW-CADを使った建築構造設計の設計問題の作図法を研修することになった。

### ②分科会見学会についての検討

岩手大会での発表を踏まえ、「建築構造設計」補助教材、考査問題の例題集の作成を効率よく作成するにはワープロソフトでなくCADソフトを利用し、同一フォーマットで問題作成をすることにより例題集の利用価値が上がるのではないかと2次元CAD(JW-CAD)による問題作成の研修をはじめることとした。

## 第5回分科会

1. 日時：平成19年12月7日(金)

2. 会場：都立墨田工業高校

3. 内容：

### ①JW-CADを使った「建築構造設計」の問題作成の手法の研修

- ・ 今回の研修を踏まえて、次回に書式等をそろえて、問題作成を行う。

### ②分科会見学会についての検討

- ・ 国土交通省主催の見学会を実施
- ・ 日程：平成20年3月28日(金) 船の科学館駅集合

## 第6回分科会

1. 日時：平成20年2月8日(金)

2. 会場：都立墨田工業高校

3. 内容：

### ①平成20年度「北陸大会」に向けての取り組みについて

- ◆分科会テーマ：JW-CADを用いた効率的な構造設計の問題作り
- ◆分科会内容：JW-CADで作成した「建築構造設計」の問題作成手法の発表

## ②分科会見学会について

- ・国土交通省主催の見学会を実施
- ・分科会委員の他、主査会・理事会でも希望者に声をかける。
- ・日程：3月28日（金） 青海旅客ターミナル集合

※ゆりかもめ「船の科学館駅」から徒歩5分

## ③JW-CADを使った「建築構造設計」の問題作成（指導：榎本、菅谷両委員）

※書式等を榎本委員に決めてもらい、各委員にメールで送ることとする。

### 分科会見学会の報告

1. 日時・場所：3月28日（金） 青海旅客ターミナル集合

2. 参加者：12名

3. 行程：

青海旅客ターミナル（たかしま乗船）→コンテナターミナル→臨海大橋（仮称）→羽田D滑走路→東扇島（下船）→（東京空港マイクロバス乗車）→第2旅客ターミナル→東京空港見学施設（解散）



国土交通省担当官の説明 ↑



海上からのD滑走路工事現場 →

### 平成20年度 第1回分科会

1. 日時：平成20年4月25日（金）

2. 会場：都立墨田工業高校

3. 内容：

#### ①分科会見学会の報告

◆日程：平成20年3月28日（金）

◆内容：国土交通省主催 東京空港D滑走路他見学会

#### ②JW-CADを使った「建築構造設計」の問題作成（指導：榎本委員）

・次回に問題をまとめられるように取り組む。

#### ③21年度 夏期研究協議会の検討

・今回のJW-CADを使った「建築構造設計」の問題作成を発展させて取り組む。

#### ④20年度 北陸大会について

・役割分担等を次回に決める。

#### ⑤主査の交代について

## 第2回分科会

1. 日時：平成20年5月30日（火）
2. 会場：都立墨田工業高校
3. 内容：
  - ①20年度「北陸大会」に向けての取り組み
  - ②JW-CADを使った「建築構造設計」の問題作成（指導：榎本、菅谷両委員）
  - ③21年度 夏期研究協議会の検討

## 第3回分科会

1. 日時：平成20年7月7日（月）
2. 会場：都立墨田工業高校
3. 内容：
  - ①20年度 北陸大会について
    - ・分科会参加者 9名の予定
    - ・当日の役割分担
  - ②発表資料の確認（部会用 カラー印刷 40部、発送資料 モノクロ 200部用意）
    - ・配布CD……榎本委員 用意
    - ・発送準備：7月15日（火）墨田工業高校で行う。
  - ③平成21年度夏期研究協議会に向けて
    - ・USBメモリーにソフトを入れ配布する。（どのパソコンでも対応できるようにする）
    - ・対象は初心者 募集人員は20名程度とする
    - ・会場候補 安田学園、神奈川工業高校
    - ・大会日時 平成21年8月6日（木）、7日（金）が第一候補
  - ④平成21年度埼玉大会の分科会発表について
    - ・今年度の単純梁の問題作成を発展させては
    - ・応用としてラーメン構造、クレモナ図、等分布荷重の問題作成、解答など
    - ・本年度の北陸大会で製図の利用ではなく、設計の問題作成等でJW-CADが利用されているかなどのアンケート行ってはいかがか。→ 大会時のアナウンスしてメールでアンケートをとる

## 第58回北陸大会

1. 分科会テーマ：JW-CADを用いた効率的な構造設計の問題作り
2. 分科会内容の概要

分科会には32名の先生方に参加していただきました。

構造分科会では昨年より設計の問題集の作成に取り組んでいましたが、いざ、問題作成を初めてみると委員の先生方が色々なソフトを使って作成していることが分かり、問題を共有するのに不都合であることがわかりました。

そんなとき、JW-CADは、

- ①製図の授業で多くの学校が活用している。
- ②フリーソフトであり導入時のコストが抑えられる。

③正確な作図ができる。(CADソフトであるから当然ですが)

④レイヤと呼ばれる透明セルを利用すると問題作りが効率よくできる。

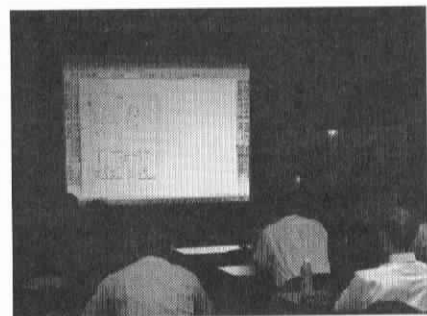
以上のことから、他の先生方と効率よく問題の共有化ができるという結論に達した。

星野委員からJW-CADを利用する利点、榎本委員からインストールの仕方、規格を統一するための環境設定ファイルの読み込み方法などの説明のあと単純梁、集中荷重の問題を配付資料の手順に従って説明されました。

特にレイヤと呼ばれる透明セルを上手に使うことが問題作成のポイントになることが説明されました。

発表の最後にCD-ROMに保存されている構造分科会委員の自作問題についての説明で終了しました。

質疑応答では、参加した先生より「力の合成の時、連力図にかいた線をどのように平行移動しているのか」など、操作方法などについての質問がありました。司会の鈴木委員から参加者全体に「問題作成にJW-CADを利用している」の間に対して「利用している」は3名の先生のみであったことは意外でした。



#### 〈来年度の取り組みについて〉

21年度夏期研究協議会は構造分科会が担当いたします。

初心者向けの「JW-CADを用いた効率的な構造設計の問題作り」を実施いたします。

建築構造設計の問題作り等にJW-CADを利用しているかのアンケートを実施する予定ですのでご協力お願いいたします。

アンケートの結果をふまえ建築構造設計の問題を共有できるような手立てを今後考えていきたいと思っています。

# 施工分科会報告

埼玉県立大宮工業高等学校 塩山昇

## 1、はじめに

本年度の活動としては、各方面から、大工技能検定2・3級課題の講習会、大工道具の扱い方講習会など、個人の技術能力を引き上げるための希望が多かった。これは、高校生ものづくりコンテストなどを通して、各教員の技能に対する意識向上が伺える。しかしながら、教育現場の現状として、建築施工の授業を行うにあたり、現場経験が少ない授業担当者の負担増、また、建築施工の図を板書するための授業時間のロスにもつながっている。

これらのことより、本分科会の研究課題は、施工の授業のより所とまでは行かないが、授業の手助けになればと、建築施工の【視覚的補助教材パート6木造住宅編】にした。内容としては、木造住宅の仕上げ・設備工事を扱った。表1のようにこの補助教材研究は、鉄筋コンクリート構造の躯体工事、仕上げ工事、土工事。また、木構造の解体から基礎工事、基礎から上の建て方による上部構造と屋根工事、仕上げ・設備工事とシリーズ化して6年目となる。

平成年度	研究内容	発表大会	発表日
15	鉄筋コンクリート工事 躯体工事	山梨大会	7月31日
16	“ 仕上げ工事	群馬大会	7月26日
17	“ 土工事	岐阜大会	7月28日
18	木造住宅 解体～基礎工事	静岡大会	8月1日
19	“ 建方～屋根工事	岩手大会	7月26日
20	“ 仕上げ～設備工事	北陸大会	7月31日

表1 過去6年間の施工分科会研究内容（視覚的補助教材）

## 2、年間活動

### 平成20年度施工分科会委員

小嶋 計一(宇都宮工業高校定)	田辺 登(昭和第一学園高校)
丸山 悟(田無工業高校)	伊藤 彰人(鶴見工業高校)
権田 幸男(大宮工業高校)	平柳 政幸(日本工大駒場高校)
高橋 篤史(安田学園高校)	網中 正仁(館林商工高校)
峯 孝一(京葉工業高校)	寒河江美和(新潟工業高校)
飯塚日登美(新潟工業高校)	山口 哲也(蔵前工業高校)
吉村 公利(春日部工業高校)	林 祐介(市川工業高校)
鷹野 正明(向の岡工業高校)	塩山 昇(大宮工業高校)

### ●平成19年11月22日 施工委員会(栃木県立宇都宮工業高等学校)

#### 『内容』技能研究会

- ①3級技能検定(建築大工)の実践的研究
- ②大工道具の扱い方

### ●平成20年1月18日 第1回 施工委員会(安田学園高等学校)

- 『内容』①平成20年度研究課題について…年間予定、各工事の係分担、  
②3級技能検定(建築大工)の実践的研究の反省

### ●春季休業中 … 各委員は、分担された施工写真の中から使用する写真を選択

●平成20年5月23日 第2回 施工委員会(安田学園高等学校)

『内容』①資料研究と確認 … 各委員選択の写真を検討

②夏期講習会について

●担当した写真のタイトルと説明文を考え、編集担当に送付

●平成20年7月3日 第3回 施工委員会(安田学園高等学校)

『内容』①総会出席予定者の役割分担 司会、説明、パソコン操作、書記、写真・記録

②発表資料の検討 … 画像の選択とタイトル・説明文の検討 → 最終調整

●資料作成 … 送付

●平成20年7月31日～8月1日 東日本建築教育研究会北陸大会

『内容』研究発表 7月31日16:20分～17:40

会場:金沢歌劇座 別館3階 大練習室

施工分科会にて研究発表(写真1)

分科会参加者35名。発表内容のCDを配布。



写真1 発表風景

3、施工分科会の本年度研究内容

1)目的とテーマ

本年度の研究目的は、前年度迄と同様

① 建築施工の授業における図の板書の効率化

② 建築施工現場の内容を分かりやすく伝えることによる生徒の興味と理解力の向上

テーマは、前述のように【建築施工 視覚的補助教材 パート6 木造住宅(仕上げ)完結編】である。内容は、瓦工事・クロス張り工事・外壁仕上工事・建具工事・床工事・天井工事・左官工事・防水工事・衛生設備工事・電気設備工事・外構工事で、木造住宅の仕上工事を中心に完成までの段階をまとめたものである。これは、前年度のパート5において、土台取付け・建方・屋根工事の各工程を発表したので、その続きとなる。

2)発表内容

分科会は1時間20分予定された。内容説明と質疑応答を考慮して、40分程度の発表時間になった。写真2は質疑応答の様子である。

タイトル文字と画面のセクションごとに説明を加えたものが、全部で126画面あり、その中に動画を16本挿入した。

その内容は、前述のように屋根工事から外構工事まで、各工事ごとに11のセクションにまとめた。



写真2 質疑応答風景

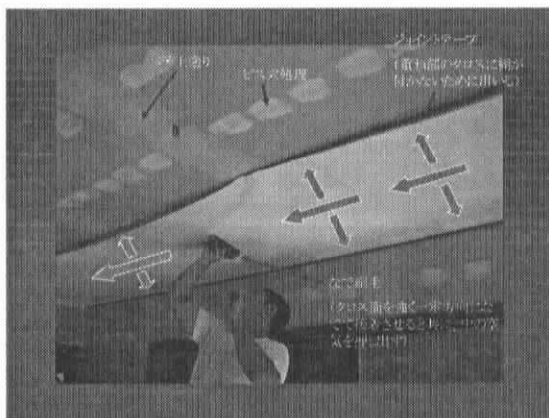
3) 今回発表内容の概要

第58回東日本建築教育研究会総会  
北陸大会 施工分科会発表

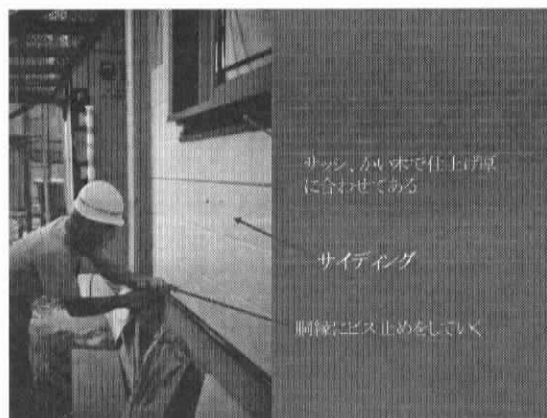
視覚的補助教材 木造住宅～完結編～



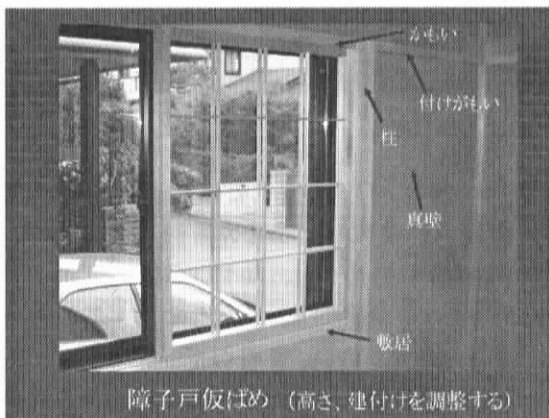
① 瓦工事



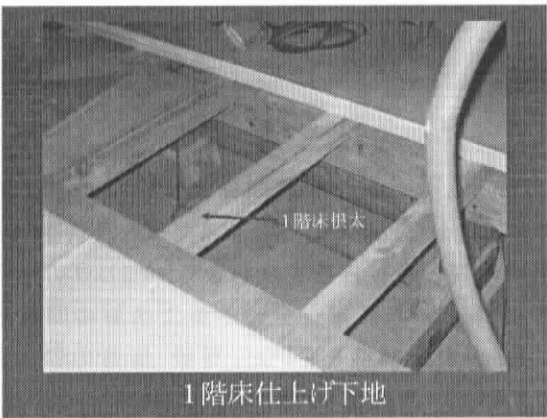
② クロス張り工事



③ 外壁仕上げ工事



④ 建具工事



⑤ 床工事





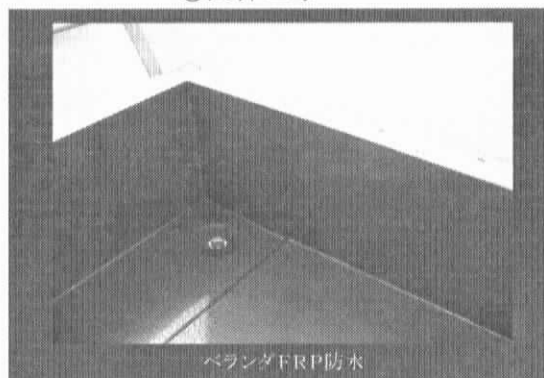
天井下地全景(張上げ天井)

⑥天井工事



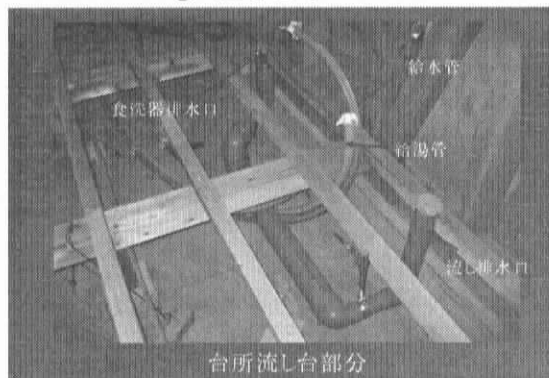
全体を平らにして仕上げる

⑦左官工事



ベランダFRP防水

⑧防水工事



食洗器排水口

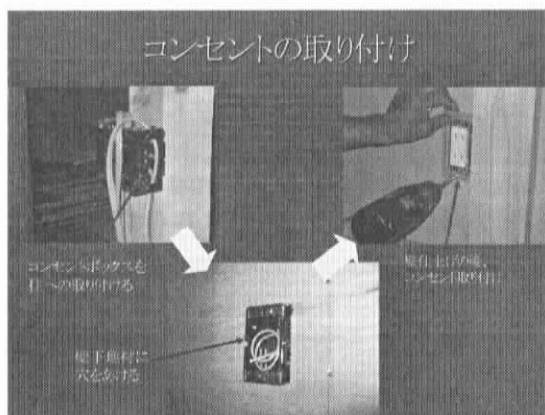
給水管

給湯管

流し排水口

台所流し台部分

⑨衛生設備工事



コンセントの取り付け

コンセントボックスを  
目へ取り付ける

壁に目印を  
つけ、コンセント位置を  
決める

壁下材に  
穴を開ける

⑩電気設備工事



防湿シート

溶接金網

外構防湿シート及び溶接金網配筋

⑪外構工事

#### 4、まとめ

本分科会の研究発表開始にあたり、司会より6年間の視覚的教材作成の経過報告をした。その後、約40分間スライドによる発表と説明をした。この資料に使用した写真の撮影にあたり、現場の状況と撮影日程を合わせるタイミングの難しさ、時間的余裕の作り方等に大変苦労した。また、撮影した写真が安全面や施工法等の関係で使用できない場合があり、使用する写真の選定にあたり大変神経を注いだ。質疑・応答の際、「動画もあり分かり易い。資料のデータベース化ができないか。学校の実情にあったものに改変したい。」等の意見があった。視覚的教材を見ただけで終わりにせず、プリントの作成等でフォローするなど、授業の展開に工夫が必要である。また、現在再来年度の夏期講習会は、2級技能検定(建築大工工事)をテーマにして検討中である。

平成19年度  
第26回全国高校生建築製図コンクール  
第12回全国高校生建築CAD作品展  
結果報告

第26回全国高校生建築製図コンクール及び第12回全国高校生建築CAD作品展には、東日本建築教育研究会の加盟校及び加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

[I] 応募状況

(1) 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
H18	H19	H18	H19	H18	H19	H18	H19	H18	H19	H18	H19	H18	H19
79校	77校	75校	71校	4校	6校	67校	63校	4校	6校	8校	8校	0校	0校

(2) 応募作品数

課題名	加盟校別	回数	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題1	加盟校	H18	53校	139点	53校	139点	0校	0点
		H19	55校	137点	52校	135点	2校	2点
	加盟校以外	H18	4校	12点	4校	12点	0校	0点
		H19	5校	15点	5校	15点	0校	0点
課題2	加盟校	H18	33校	81点	30校	75点	3校	6点
		H19	35校	82点	33校	79点	2校	3点
	加盟校以外	H18	5校	12点	5校	12点	0校	0点
		H19	6校	16点	6校	16点	0校	0点
課題3	加盟校	H18	42校	97点	39校	92点	3校	5点
		H19	校	104点	37校	94点	5校	10点
	加盟校以外	H18	5校	11点	5校	11点	0校	0点
		H19	校	14点	5校	14点	0校	0点
課題4	加盟校	H18	10校	21点	10校	21点	0校	0点
		H19	11校	27点	11校	27点	0校	0点
	加盟校以外	H18	4校	11点	4校	11点	0校	0点
		H19	2校	6点	2校	6点	0校	0点
課題5	加盟校	H18	17校	37点	17校	37点	0校	0点
		H19	校	26点	12校	26点	0校	0点
	加盟校以外	H18	1校	2点	1校	2点	0校	0点
		H19	1校	3点	1校	3点	0校	0点
応募校計		H18	423点 (加盟校 375点・加盟校以外 48点)					
		H19	430点 (加盟校 376点・加盟校以外 54点)					

## (3) 校内作品審査数の総計

		課題1	課題2	課題3	課題4	課題5
加盟校	H18	1705点	900点	841点	85点	37点
	H19	971点	487点	468点	35点	31点
加盟校 以外	H18	191点	150点	121点	84点	2点
	H19	58点	22点	27点	9点	3点
応募校計	H18	1896点	1050点	962点	169点	39点
	H19	1029点	509点	495点	44点	34点

## [II] 入賞者一覧

課題1 軒先マワリ詳細図				
数	賞	学校名	学科学年	生徒氏名
1	金賞	栃木県立那須清峰高等学校	建設工学科1年	渡邊美佳
2	銀賞	栃木県立那須清峰高等学校	建設工学科1年	横田貴大
3	銀賞	長野県飯田長姫高等学校	建築科1年	滝沢彩
4	銅賞	私立名古屋工業高等学校	建築科1年	久野友生
5	銅賞	愛知県立半田工業高等学校	建築土木科1年	水野貴視
6	銅賞	長野県飯田長姫高等学校	建築科1年	尾曾かなえ
7	入賞	群馬県立高崎工業高等学校	建築科1年	星野恵佑
8	入賞	群馬県立高崎工業高等学校	建築科1年	岡田拓
9	入賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築科1年	山田陽子
10	入賞	宮城県石巻工業高等学校	建築科1年	阿部史菜
11	入賞	宮城県白石工業高等学校	建築科1年	菅野美咲
12	入賞	千葉県立市川工業高等学校	建築科1年	飯名悠生
13	入賞	長野県飯田長姫高等学校	建築科1年	梶村愛美
14	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築土木科1年	高橋仁美
15	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築土木科1年	星野剛徳
16	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築土木科1年	藤江眞美
17	入賞	名古屋市立工芸高等学校	建築システム科1年	余合将和
18	入賞	私立名古屋工業高等学校	建築科1年	加藤大輝
19	入賞	私立名古屋工業高等学校	建築科1年	矢野高弘
20	入賞	群馬県立高崎工業高等学校	建設科2年	井上文男

## 課題2 木造平家建専用住宅

課題2 木造平家建専用住宅				
数	賞	学校名	学科学年	生徒氏名
	金賞	該当作品なし		
1	銀賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	堀口香梨
2	銀賞	千葉県立市川工業高等学校	建築科2年	蔭美喬
3	銅賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	大津久典
4	銅賞	群馬県立高崎工業高等学校	建築科2年	永瀬麻貴
5	銅賞	群馬県立高崎工業高等学校	建築科2年	今井千波

6	入賞	岩手県立久慈工業高等学校	建築科2年	埜中桐子
7	入賞	仙台市立仙台工業高等学校	建築科2年	羽生美菜子
8	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科2年	木戸聖子
9	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科2年	小川和哉
10	入賞	東京都立総合工科高等学校	建築都市工学科2年	小泉友梨花
11	入賞	東京都立総合工科高等学校	建築都市工学科2年	伊藤歩
12	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	長澤知世
13	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科3年	久保英晃
14	入賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年	阿部航己
15	入賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年	依田彩加
16	入賞	長野県飯田長姫高等学校	建築科2年	横前史門
17	入賞	静岡県立修善寺工業高等学校	建築科2年	山下真矢
18	入賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科2年	水野絵梨香
19	入賞	松山聖陵高等学校	建築科2年	山内優
20	入賞	松山聖陵高等学校	建築科2年	松原圭祐

課題3 木造2階建専用住宅				
	金賞	該当作品なし		
1	銀賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築科3年	薄久保大造
2	銅賞	岐阜県立中津川工業高等学校	建設工学科3年	糸魚川遼
3	銅賞	兵庫県立龍野実業高等学校	建築科3年	長宋洋志
4	銅賞	栃木県立那須清峰高等学校	建設工学科3年	オリベイラルイス
5	銅賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科3年	磯貝直人
6	入賞	岩手県立盛岡工業高等学校	建築科2年	阿部慎也
7	入賞	栃木県立那須清峰高等学校	建設工学科3年	薄井隆生
8	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科3年	坂下淳一
9	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科2年	増田栄嗣
10	入賞	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	井本亮
11	入賞	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	新美隆之
12	入賞	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年	新美若奈
13	入賞	私立名古屋工業高等学校	建築科3年	栗野浩一
14	入賞	岐阜県立中津川工業高等学校	建設工学科3年	原正成
15	入賞	兵庫県立龍野実業高等学校	建築科3年	新山紀子
16	入賞	兵庫県立兵庫工業高等学校	建築科3年	森せり
17	入賞	松山聖陵高等学校	建築科2年	日野允稔
18	特別奨励賞	群馬県立高崎工業高等学校	建設科4年	上原佑介

課題4 木造平家専用住宅 CAD製図				
	金賞	該当作品なし		
1	銀賞	松山聖陵高等学校	建築科3年	矢野泰良
2	銀賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年	関口宏海
3	銅賞	松山聖陵高等学校	建築科3年	久保清文
4	銅賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年	古屋朱梨
5	入賞	学校法人松韻学園福島高等学校	建築土木科3年	安藤祐太郎
6	入賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年	小沢恵里子
7	入賞	関東第一高等学校	建築ビジュアル科2年	小田島敏明
8	入賞	金沢市立工業高等学校	建築科3年	西田明子
9	入賞	金沢市立工業高等学校	建築科3年	山田優香
10	入賞	金沢市立工業高等学校	建築科3年	新田佳奈子

課題5 木造2階建専用住宅のプレゼンテーション CAD作品				
	金賞	該当作品なし		
1	銀1	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科3年	宮脇豊
2	銀2	宮城県古川工業高等学校	建築科3年	横山奈央
	銅賞	該当作品なし		
3	入賞	長野県長野工業高等学校	建築科2年	小林史晶
4	入賞	長野県長野工業高等学校	建築科2年	田中亜季
5	入賞	金沢市立工業高等学校	建築科3年	林裕多嘉
6	入賞	金沢市立工業高等学校	建築科3年	古川純規
7	入賞	岐阜県立大垣工業高等学校	建設工学科3年	野村考徳
8	入賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科3年	村本駿
9	入賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科3年	三井大一

### [Ⅲ] 審査の方法

(1) 11月13日(火) 第一次審査(課題によっては第二次審査まで)

1) 課題1・2・3は第一次審査を原図で、第二次審査を複写図を用意して行ないました。

課題4・CAD作品展(課題5)は原図で審査しました。

2) 課題1・2・3全複写図の表題欄をカットしました。課題4・CAD作品展(課題5)の原図は、表題欄を伏せました。

3) 各課題第一次審査通過課題を入賞としました。

(2) 11月19日(月) 第二次審査

1) 各課題の最終審査を、計画・構造・施工・製図の各分科会委員の先生方が担当し、それぞれの専門分野から減点項目をシートにまとめ審査しました。

2) 最終的に委員全員が投票を行ないました。

[IV] 審査講評

(1) 減点の項目

<p>課題1 軒先マワリ詳細図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線種の使い分け（太線，中線，細線等）</li> <li>・部材寸法の正確さ（羽子板ボルト，軒DOI等）</li> <li>・文字や数字の丁寧さ（製図文字等）</li> <li>・隠れ線の有無（軒桁まわり等）</li> <li>・部材名や寸法の書き忘れ（鼻隠の寸法値等）</li> </ul>
<p>課題2 木造平家建専用住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本製図力（配図，線，文字，数字）</li> <li>・配置図（敷地面積，道路表記，物置・普通自動車1台分の駐車スペース，造園計画，道路の位置，高低差，道路・隣地境界線，敷地境界線から建物までの距離，造園計画，添景表現等）</li> <li>・平面図（模写の正確さ等）</li> <li>・立面図（開口部，壁，屋根形状，図面間の不整合等）</li> <li>・断面図（高さ，開口部，屋根勾配，図面間の不整合，切断位置（視方向矢印の欠落含む）等）</li> </ul>
<p>課題3 木造2階建専用住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本製図力（線の強弱・メリハリ，文字・数字の不揃い等）</li> <li>・平面図（建築物と造園との表現のメリハリ等）</li> <li>・立面図（屋根の不整合，図面間の矛盾等）</li> <li>・断面図（高さ・開口部寸法，切断位置，室名等）</li> <li>・造園計画（描き込み不足，構想・表現力不足等）</li> <li>・書き込みの欠落・不備・不足（通し柱，柱，通り芯，道路と敷地の高低差，境界線長さ寸法，面積表等）</li> </ul>
<p>課題4 木造平家建専用住宅 CAD製図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本製図力（線の太さ・線種の使い分け，文字，数字の大きさの使い分け，レイアウト等）</li> <li>・配置図（各自の設計，敷地350㎡以内，接道1面，物置・駐車スペースの確保，造園計画，添景表現等）</li> <li>・平面図（模写の正確さ等）</li> <li>・立面図（各自の設計，屋根のおさまり，南面・西又は東面の合計2面の確保等）</li> <li>・断面図（各自の設計，屋根のおさまり，1面の確保等）</li> <li>・平面・立面・断面図の整合性（屋根・開口部・壁等の位置等）</li> <li>・書き込み漏れ（通り芯，切断線，出入口表示▼，方位，寸法，文字，道路，隣地境界線等）</li> </ul>
<p>課題5 木造2階建専用住宅のプレゼンテーション CAD作品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本製図力（線の太さ・線種の使い分け，文字，数字の大きさの使い分け等）</li> <li>・配置図（駐車スペースの確保，造園計画，添景表現等）</li> <li>・平面・立面・断面図（オリジナリティある計画力等）</li> <li>・平面・立面・断面図の整合性（屋根・開口部・壁等の位置等）</li> <li>・プレゼンテーション力（レイアウト，内観・外観パース，説明図，着色等）</li> </ul>

[V] 平成20年度に向けて

- 1) 課題1 軒先マワリ詳細図  
平成19年度 例年通り。  
平成20年度 製図の基本であり、例年通り。
- 2) 課題2 木造平家建専用住宅  
平成19年度 敷地を一回り大きくして庭の設計も行なう。  
平成20年度 変更なし。
- 3) 課題3 木造2階建専用住宅  
平成19年度 法規・構造（特に屋根の形状）を踏まえた作品を提出するように促す。  
平成20年度 法規・構造に配慮した、個性的な作品を期待する。
- 4) 課題4 木造平家建専用住宅 CAD製図  
平成19年度 課題2を手書きの表現で作図するCAD製図です。  
平成20年度 変更なし。
- 5) 課題5 木造2階建専用住宅のプレゼンテーション CAD作品  
平成19年度 生徒に主旨が伝わるようにする。課題3を使用する。  
平成20年度 課題3をCADで表現する。

[VI] 審査委員

第26回全国高校生建築製図コンクール及び第12回全国高校生建築CAD作品展の、審査に携わって頂いた先生方は以下の方々です（敬称略、順不同）。

福島 勝（日工大付東京工）	櫻井 良明（甲府工）	橋本 政美（昭和第一学園）
筒井 斉（神奈川工定）	鈴木 浩之（那須清峰）	田口 学（磯子工）
江原 聖直（大宮工）	武田 明広（市川工）	岩瀬 政利（市川工定）
菅沼 雄介（富士北稜）	高橋 篤史（安田学園）	吉村 公利（春日部工）
斎藤 史晃（今市工）	國島 かほり（向の岡工）	富田 真理子（総合工科）
荒木 宏道（前橋工）	米原 良慈（小石川工）	高橋 裕（神奈川工）
吉本 正樹（高崎工）	佐々木 英治（向の岡工）	小沢 宏（総合工科）

今年度も審査講評を参考にして頂き、ご応募くださるようお願い申し上げます。

なお、審査結果は「住宅建築」（建築資料研究社刊）に、掲載の予定です。

平成20年4月1日  
製図コンクール運営委員長  
塩澤 泰



# 資格取得推進委員会 活動報告

東京都立総合工科高等学校 小 沢 宏

資格取得推進委員会では、生徒の資格に関する事項を取り扱っています。

## 1 この1年間の活動状況

第1回委員会	9月21日	東京都立墨田工業高等学校
第2回委員会	11月28日	東京都立墨田工業高等学校
第3回委員会	6月27日	東京都立総合工科高等学校
第4回委員会	9月5日	東京都立総合工科高等学校

## 2 建築士試験高校生受験への取り組み

数年に渡り建築士試験の高校生受験へ取り組んできましたが、姉齒事件に端を発する耐震偽装事件や建築士法の改正に伴う受験要件の見直しなどにより、この時期における活動の継続・進展は厳しい状況となりました。この点から、当面活動を凍結することとなりました。

ただし、完全に中止するというのではなく、将来の再開のために今できることを中心に活動をしていきます。その点から現時点で高校在学中に受験が認められている「2級建築施工管理技士学科試験」の実績が道を拓くと考えています。

## 3 2級建築施工管理技士学科試験

この試験は、数年前の受験地の減少・時間帯の変更・受験料の改訂及び試験自体の一元化による難易度の上昇などの点から受験者数が減少の傾向にあります。

現状を正しく把握し受験の促進・合格率の上昇が、今後の建築士への対策につながることを重視し、今年度は「2級建築施工管理技士学科試験」を大きなテーマの1つとして取り上げていきます。

これに伴いアンケートを実施しますので、ご協力をお願いします。

## 4 富士教育訓練センター建築系高校生生徒体験実習

本委員会が中心に「建築系高校生生徒体験実習」を、いずれも8月の実施で第1回から第3回までは2泊3日で、第4回及び第5回は3泊4日で実施してきました。実習内容は安全教育・足場・鉄筋・型枠・測量・高力ボルトで、宿泊による集団生活を通じて協調性の育成も目的のひとつになっています。参加実績は下記のとおりです。

第1回	2004年	東京都立蔵前工業高校(5名)・千葉県立市川工業高校(4名)
第2回	2005年	東京都立蔵前工業高校(4名)・岐阜県立高山工業高校(2名)
第3回	2006年	東京都立総合工科高校(4名)・東京都立蔵前工業高校(3名)
第4回	2007年	東京都立総合工科高校(8名)・千葉県立市川工業高校(8名) ・千葉県立東総工業高校(2名)
第5回	2008年	東京都立総合工科高校(6名)・葛西工業高校(4名)

この5年間で50名の生徒が参加しました。また、今年度は、本研究会とは別系統で山梨県及び千葉県が、県単独で実施し28名の生徒が同様の実習を行いました。

## 5 富士教育訓練センター教員研修

前項の生徒参加校は、所属校の教員の指導のもとに参加していますので、モチベーションも高くよい成果を得ています。生徒たち修了時の感想文には「参加してよかった」・「楽しかった」などの建設業への理解を深めたことを感じさせるもの多くあります。これらは将来の生徒たちの進路選択に確実に役立ち、また、就業後のミスマッチによる離職を防ぐ効果も絶大です。これらの点から、教員が富士教育訓練センターでの実習を理解することが必要であり、本委員会では今後、教員研修の推進を図り方向で検討を進めています。



## 「2級建築施工管理技術検定試験」の解答データ分析について

資格取得推進委員会委員 石井直樹

(群馬県立前橋工業高等学校 建築科)

群馬県では平成17年度より資格委員会を新設し、生徒の資格取得に対する意識向上を目的に各校の指導状況等の情報交換を行っています。この活動の一環として一昨年より「2級建築施工管理技術検定試験」における解答データの収集を行っています。

収集の目的は次の3つです。1、生徒の学習理解の確認ができるため試験後の授業で効率の良い学習指導ができる。2、試験内容が「建築士」試験と共通する分野があるため解答結果を生徒自身が把握しておくことは、将来の「建築士」受験に役立てることができる。3、職員の指導に対する総括ができるため次年度以降の指導に役立てることができる。

生徒にはデータ収集をする目的と活用方法等を繰り返し説明し、可能な限り最後まで問題解答に取り組み問題用紙を持ち帰るように指導しています。昨年度の本校の取り組み状況は、大学入試日程と重なった者と風邪のため欠席した者以外、全員が最後まで試験に取り組んでくれました。

別表は、昨年度の本校データです。選択問題の解答で得点の高いものから順に表示しています。黄色◎が正答率70%以上、青色×が正答率50%未満の問題を表しています。(10, 20, 30, 40は選択した答え、1, 2, 3, 4は選択しなかった答えを表しています。)

試験範囲が広がったため全ての分野を説明することは不可能だと感じています。そこで、比較的基礎的な問題が多い前半の問題を中心に指導をしています。後半の問題は現場で必要となる内容を中心に指導しています。データを見ると35問までの正答率は比較的良く、36番以降の施工工事に関する出題は理解不足だと分かります。当たり前のことですが指導方法とデータは顕著な相関関係があると言えるでしょう。一覧表にすることで生徒の得て不得手な分野が一目瞭然になると共に、我々職員の指導における反省点や改善点に分かってきたと思っています。

各設問に対する検証の一例として、別表のNo.34をご覧ください。「労働安全衛生法」で約半数の生徒が4番と答え間違えています。この様に多くの生徒が同じ間違いをする場合、説明が不十分であったと考えられます。生徒と共に検証してみると「総括安全衛生管理者」と「統括安全衛生責任者」、「安全管理者」等は比較的詳しく説明し生徒も理解していたようです。しかし、「店社安全衛生管理者」、「安全衛生推進者」等は説明不足で十分理解されていませんでした。この結果多くの生徒が勘違いしたのだと思われます。

全問65問中35問以上正解できれば合格安全圏に入ると思われます。したがって全問題の半分の内容について理解できていれば合格する確立は高くなると思われます。

本校では、授業で過去問題(多くの場合は35問に絞り出題)に取り組んだ時は、別表と同じ形式にまとめた一覧表をクラス掲示しています。この方法は、生徒の合格への意識向上と、限られた時間の中で効率良く学習させるためには有効な手段だと思っています。

拙い分析紹介ですが今後の指導の一助にいただければ幸いです。



## 建築系高校生生徒体験実習の引率を通じて

東日本建築教育研究会 資格取得推進委員会 秋山竜二

8月18日(月)から21日(木)まで、富士教育訓練センターで東日本建築教育研究会(以下、研究会)が主催する3泊4日の『建築系高校生生徒体験実習』が開催された。本年度で5回目である。東京都立葛西工業高校と東京都立総合工科高校の2校の2・3年計10名が参加した。今年度より東京都は生徒の参加費用の一部を社団法人東京建設業協会に支援して頂けることとなった。他に、県の建設業協会が主催という形で千葉県から20名、山梨県から9名が参加していた。

本年度の実習内容は以下の通りである。

初日 午後：入校式の後、足場実習(枠組足場組立解体)。

2日目 午前：朝礼での安全教育と鉄筋実習(スラブ組立・解体)。

午後：型枠実習(地中梁組立)及び鉄骨実習(吊足場、番線・ロープの使い方)。

3日目 午前：型枠実習(解体)、鉄筋コンクリート造・鉄骨造についての講義。

午後：測量実習(光波測距儀)。

最終日 午前：鉄骨実習(高力ボルト耐力確認試験)修了式。

2日目午後から最終日までの型枠実習及び鉄骨実習は、中央工学校が実施している実習に加わせて頂いた。これは本体験実習の特色のひとつである。

実際の建設現場と同様、朝一番にラジオ体操・人員点呼・指差確認・KY(危険予知活動)等を行い、さらに、高校生だけでなく専門学校生や社会人を含んだ100名以上の前で体験発表をする。このような朝礼から始まり、朝から夕方までヘルメットをかぶっての生活を4日間続けて行うという、1日の生活が建築施工を中心に展開される。また、他校の高校生や専門学校生と共同して作業する。最初はぎこちない連携も、時間とともに呼吸が合っていく。いずれも、普段の学校の実習ではなかなか体験できないことである。夏休み期間に富士山の麓で宿泊してまで施工実習を行おうという意欲のある生徒の期待に答えられる内容であると実感した。さらに、指導教官および講師の方からは、高校生にもものづくりの楽しさを伝えようという熱意が強く感じられた。

研究会では、体験実習の目的として以下の3点を掲げている。

- ①基礎的技術と専門的な知識を現場の技能者の指導を受ける。
- ②宿泊を伴う団体生活により、集団生活のルールを体験する。
- ③建設業で働く社会人との共同生活により、建設業の職場習慣を知る。

私は今回始めて参加したが、4日間を終えて、先に挙げた目的を概ね達成可能な実習であると感じた。また、富士教育訓練センターは専門工事業者から大手のゼネコンまでが新入社員教育等に活用されているようである。実際に建設業で働く人を指導している専門の技能者・技術者から生徒が指導を受けている様子を見ることは、私たち工業高校の教員にとっても非常に有益であると思った。

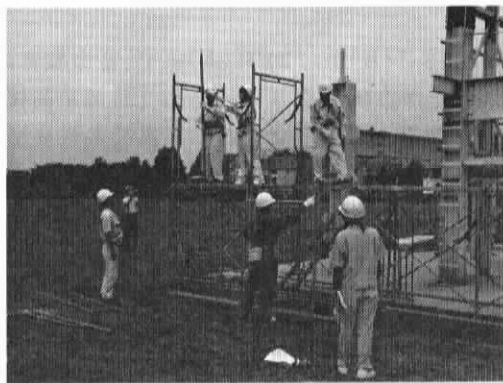
今後も本体験実習が継続して行われ、一人でも多くの工業高校生および教員が参加されることを望む。



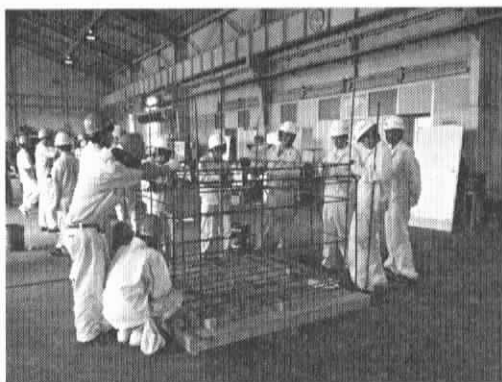
建築系高校生生徒体験実習の様子



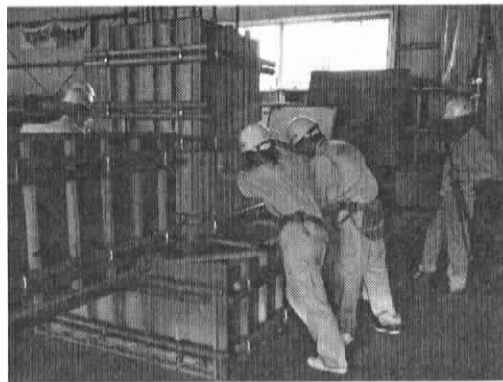
朝礼（指差確認）



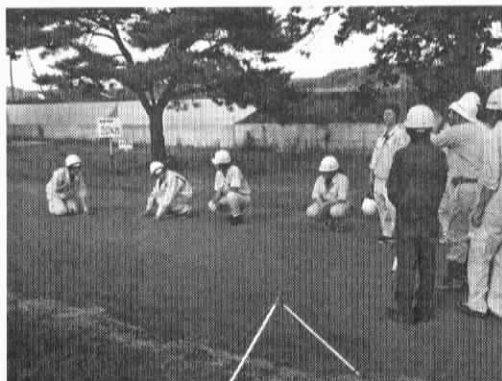
足場実習



鉄筋組立実習



型枠組立実習



測量実習



修了式

### 1. はじめに

長野県は、本州の中央部に位置し東西約120km、南北約212km、13,562平方キロメートルの面積を誇る全国で4番目に大きな県です。また、県のキャッチフレーズ「つらなる つながる 信州」には、「日本の屋根」と呼ばれる雄大な山々に代表される自然の豊かさと、8県と境を接する交流の要という地理的条件を生かし、人と人の絆、地域と地域のつながりを大切にし、県外や海外にも開かれた意識を持ちながら、県民の知恵と力を結集して「活力にあふれ安心して暮らせる魅力ある長野県」をつくっていききたいとの思いが込められています。

長野県下の高等学校建築科は「長野工業高等学校」「上田千曲高等学校」「池田工業高等学校」「飯田長姫高等学校」の県立高校4校が、県下の北信・東信・中信・南信の4地区に1校ずつあります。



長野県の高校・建築科

### 2. 長野県長野工業高等学校 建築科

大正6年に創立され、大正9年に土木講習科（現：全日制建築科）・夜間建築科（現：定時制建築科）が設置された。現在は全日制に工業科7クラス（機械科・電気科・情報技術科・工業化学科・土木科・建築科・環境システム科）および定時制2クラス（基礎工学科・建築科）の専門工業高校です。長野工業高校では「長工版技術者育成プロジェクト」として企業および大学と連携し、レベルの高いものづくり技術を学ぶことを目標とし、文部科学省・経済産業省の「地域産業担い手育成プロジェクト」に参加しています。また、建築科では信州大学工学部建築学科と高大連携を行い、文化的な建築物の調査研究を進めています。本年は高大連携の一環として長野朝日放送企画の「見つめて！信州生テレビ2008」（里山に憩いの小屋を造る）に信州大学生と共に参加しました。

### 3. 長野県上田千曲高等学校 建築科

大正6年に創立され、昭和17年に建築科が設置された。現在は全日制に工業科4クラス（機械科・電子機械科・電気科・建築科）、商業科1クラス、家庭科2クラス（食物栄養科・生活福祉科）および定時制1クラス（機械科）の県下でも有数の総合専門高校です。上田千曲高校では、専門分野の学習を通して、国際化時代にふさわしい人間性の向上と、一人ひとりの能力の可能性を最大限に引き出す教育を実践しています。また、建築科では、建築分野で十分に活躍できる有能な建築技術者の養成を目指し、平成19年からデザイン系の内容を増やし、カラーコーディネーターやグラフィックデザインなどの資格取得にも力を入れて、大学や企業のデザインコンペなどにも積極的に参加している。

#### 4. 長野県池田工業高等学校 建築科

大正10年に創立され、昭和39年に建築科が設置された。現在は全日制に工業科3クラス（機械科・電気情報システム科・建築科）および定時制1クラス（普通科）で中信地区唯一の建築科設置高校です。池田工業高校では、職業体験を主とした「池工版デュアルシステム」が3年目となり、3年生の希望者を対象に、週1日、受け入れ企業・団体に出向いて実習を行っています。また、文部科学省・経済産業省の「地域産業担い手育成プロジェクト」にも参加し、デュアルシステムに加え企業短期実習にも幅が広がっている。建築科では、地域のさまざまな要請（コミュニティーセンターのエントランスの改修等）に応え実践し技術を身につける「池工お助け隊」を実践しています。

#### 5. 長野県飯田長姫高等学校 建築科

大正10年に創立され、昭和19年に建築科が設置された。現在は全日制に工業科2クラス（土木科・建築科）、商業科2クラスおよび定時制2クラス（普通科）で県下の南端、飯田市にある専門高校です。飯田長姫高校では、「魅力ある活動支援事業」を行い、専門高校として地域からの信頼を高め、将来地域経済の担い手となる有能な人材を育成することをテーマとし、社会人講演会・資格取得等に取り組んでいる。建築科では、「ものづくりコンテスト」県大会において毎年上位入賞を果たし北信越大会に出場を決め、全国製図コンクールやJIA製図コンクールでも連続の上位入賞をしています。また、近隣の飯田工業高校との統合が決まり、両校でプロジェクトチームを組み地域の要望を聞きながらより良い統合を目指しています。

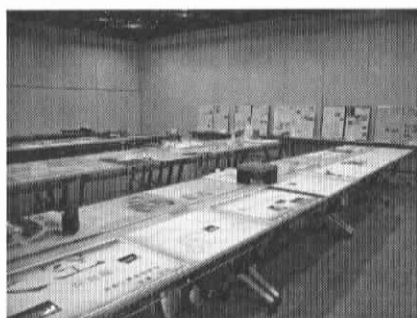
#### 6. 長野県下の建築教育

長野県の工業教育は長野県工業教育研究会のもとに各分科会・各種委員会等で切磋琢磨し活動をしています。建築分科会では4校輪番で事務局を行い、年1回4校の職員が集まり研究会を開催しています。「ものづくりコンテスト」には各校が参加し、インテリア科2校（臼田高校・木曾青峰高校）と共に県大会を開催しています。また、課題研究では、各校共に「卒業設計製図」に取り組んでいます。課題は図書館・美術館・幼稚園など各校で様々ですが3年間の建築学習の集大成として行っています。各校の優秀作品をJIA長野県クラブ主催の「長野県学生卒業設計コンクール」に出展しています。

現在、建築業界は建築産業の低迷・建築士資格の見直し等多くの問題を抱えています、より良い建築技術者の育成を目指して各校共に取り組んでいます。



ものづくりコンテスト（県大会）



長野県学生卒業設計コンクール

# 群馬県の工業高等学校教育の現状

群馬県立高崎工業高等学校 星野隆一

## 1 はじめに

群馬県での建築系学科を持つ高校は、藤岡工業高校と長野原高校の建築科がなくなり、平成19年度には6校から4校へととなりました。これまでに「建築六校展」と呼ばれた県内の建築設計競技も、学校数減少に伴い「群馬県高校生『建築展』」と改称されました。しかし、建築展も今年度で第45回の開催となり、継続的な教育的成果を見ることができ、現在でも群馬県のレベルアップに貢献し続けています。また、今年度、文部科学省と国土交通省の連携による「地域産業の担い手育成プロジェクト」が採択され、本県の前橋工業高校と高崎工業高校においてプロジェクトが実施されています。

## 2 現在の工業高校建築系学科の概要

### (1) 県立前橋工業高等学校

建築科（全日制・定時制）

所在地	〒371-0006 前橋市石関町137-1
電話	027-264-7100
FAX	027-264-7101
開校年	大正12年

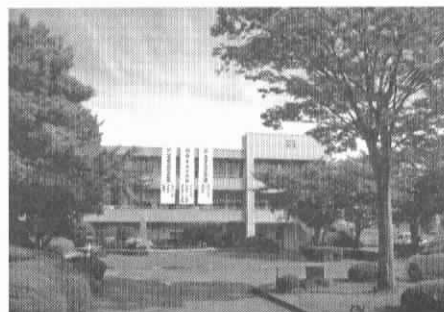


平成15年度から3年間、文部科学省の「目指せスペシャリスト」の指定を受け、平成17年度にはISO 14001（環境マネジメントシステム）を認証取得しており、環境教育を積極的に進めています。資格取得が盛んで、毎年全国有数の実績をあげています。建築科においては、各種建築設計競技に入賞、「ものづくり」では木材加工で全国大会に出場など、たいへん活躍しています。また、就職はもちろん進学にも力を入れ、国公立大合格者を多数輩出しています。

### (2) 県立高崎工業高等学校

建築科（全日制）、建設科（定時制）

所在地	〒370-0046 高崎市江木町700
電話	027-323-5450
FAX	027-323-1427
開校年	昭和15年



県内交通の要所である高崎駅よりおよそ2kmの位置で、広大な敷地と豊かな緑を誇る恵まれた環境にあります。県下最大規模の施設・設備に加え、先端技術の習得にも対応できる充実した設備を誇り、上級学校への進学希望者に対応したカリキュラムの編成及び教育環境を整えております。また、ニュージーランドの高校と国際交流を実施し、全国的にも珍しい完全給食を実施しています。建築科では建築実技に関する科目、「実習」・「製図」に重点をおき、就業体験や各種建築設計競技に力を入れています。

### (3) 県立桐生工業高等学校

建設科（全日制）コース制

所在地	〒376-0054 桐生市西久方町 1-1-41
電話	0277-22-7141
FAX	0277-46-4703
開校年	昭和9年



工業の専門高校として「ものづくり」を重視した魅力ある授業を実施しています。また、実習等の体験的な学習の人数は10人程度で、ゆとりある少人数授業と群馬大学工学部との連携など、特に進路や興味・関心に応じた選択授業や高大連携を行っています。進路指導においては、就職はもちろん進学の充実も図り、4年制大学への進学は専門高校県下一を目指しています。建設科では2年生から建築コース、土木コースに分かれ、それぞれの専門性を高めています。地域社会の要請に応えられる社会性豊かな技術者・技能者の育成を目的としています。

### (4) 県立館林商工高等学校

建築科（全日制）くくり募集

所在地	〒370-0701 邑楽郡明和町南大島 660
電話	0276-84-4731
FAX	0276-84-5258
開校年	昭和60年



県内初の商業科・工業科を併設した高校として、地域の人々に期待され開設されました。平成20年度で24年目を迎え、校訓の「進取、明朗、克己」の実践に努め、産業界で活躍できる人材を輩出しています。専門的な技術・技能を学び、実社会で活躍できるよう資格取得にも積極的に取り組んでいます。就職・進学いずれにも対応しています。建築科では高校生技術・アイデアコンテスト全国大会で、「組立て式茶室の制作」が理事長特別賞となるなど、「ものづくり」にも積極的に取り組んでいます。

## 3 群馬県内の建築教育の現状

群馬県工業教育研究会の建設部建築分科会では、「建築展委員会」・「資格取得委員会」・「ものづくり委員会」の3つの委員会が活動しています。「建築展委員会」では、今年で45回目の「建築展」を運営し、県下で建築を学ぶ生徒全員に、建築製図の課題を取り組ませています。「資格取得委員会」では、2級建築施工管理技士や2級建築士、福祉住環境コーディネーターや建築CADなど、建築に関係する資格の内容や指導方法などの情報交換を行っています。また、「ものづくり委員会」では、「高校生ものづくりコンテスト」に向けての講習会や群馬県大会の実施、また、技能検定（建築大工）の実技試験の講習会も実施しています。今年度の「高校生ものづくりコン



建築展ポスター



テスト」関東大会は、この「ものづくり委員会」が協力し実施されました。

また、今年度から3年間、文部科学省と国土交通省とが連携した「地域産業の担い手育成プロジェクト」に群馬県が採択され、地域の産業界と連携して、ものづくりを支える将来の専門的職業人および地域産業界のニーズに応じた職業人の育成を実現させます。本県においては、建築に対する生徒の「興味・関心」を引き出し、「職業観・勤労観」や「基本的な生活習慣やコミュニケーション能力」の育成と「基礎・基本」を重視しつつ、「実践的な知識、技術、技能を身に付けた建築技術者の育成」と、これからの建築業界を支える人材として身に付けるべき「伝統」、「環境」、「耐震」等についての知識・技能・技術や視野を身に付けた技術者の育成を図ります。

#### 4 おわりに

少子高齢化や産業構造の変化、技術革新など社会情勢が大きく変化しています。この様な中、変化に対応できる実践的技術者・技能者の育成を目指し、期待される工業高校にしていきたいと考えます。



群馬県高校生「建築展」



ものづくりコンテスト群馬県大会

平成20年度 地域産業の担い手育成プログラム実施内容一覧

群馬県 建築科

実習名	実施日			時間	実施場所	企業名・講師名	学校名	学年	参加人数	教育課程上の位置づけ
	始期	終期	日数							
<b>現場実習</b>										
施工・設計に関する実習	11月		3	24	施工会社・現場	建設業協会	県立前橋工業高等学校	1	40	建築構造・製図
伝統・環境・耐震に係わる実習	7月	8月	10	80	施工現場・研究施設	建設業協会・建築業組合連合会	県立前橋工業高等学校	2	10名程度(希望者)	建築計画・建築構造設計
施工現場における実務(工程管理・施工管理・安全管理)	通年		20	80	〃	建設業協会	〃	3	10名程度(希望者)	課題研究
建築現場における実務	11月	12月	5	40	施工現場等	建設業協会(茨城機関)等紹介企業	県立高崎工業高等学校	1	40	工業技術高層実習
建築測量・図取工事・安全管理実習	5月	6月	6	12	〃	〃	〃	2	40	〃
継続的な企業実習	通年		20	120	〃	〃	〃	3	10名程度(希望者)	課題研究・高層実習
合計				84	356					150
<b>技術者等による学校での実践的指導</b>										
建築に対する興味関心を持たせる指導	5月	7月	3	6	学校	前橋工科大学・建築士会・建設業協会	県立前橋工業高等学校	1	40	製図
伝統的建築物・環境に配慮した建築に関する指導	5月	12月	5	10	〃	〃	〃	2	40	建築計画
耐震診断法に関する指導	5月	7月	3	6	〃	前橋工科大	〃	3	40	建築構造設計
製図指導	7月	12月	3	9	学校	建築士会・JIA・前橋工科大学関連講師	県立高崎工業高等学校	1	40	製図
環境と考慮した住宅建築設計指導	5月	10月	8	24	〃	〃	〃	2	40	製図・建築計画
環境に配慮した特殊建築物設計指導	4月	10月	24	72	〃	〃	〃	3	10~20名程度(希望者)	製図
合計				46	127					220
<b>教員の高度技術習得</b>										
耐震診断法に係る研修	8月	12月	3	18	学校	前橋工科大	県立前橋工業高等学校	20名程度		
建築大工の技能に係わる研修	9月	12月	3	18	〃	建築業組合連合会	〃	20名程度		
CADの体系的な活用方法についての研修	8月	12月	3	18	学校	建築士会・JIA関連講師	県立高崎工業高等学校	20名程度		
合計				9	54					60
<b>その他の活動</b>										
現場見学	6月	12月	3	24	伝統建築物、木造建築物、有名建築物	建設業協会または学校にて選定	県立前橋工業高等学校	1	40	建築構造
〃	6月	12月	3	24	伝統建築物再生現場、環境建築物、耐震研究	学校にて選定	〃	2	40	建築計画・建築構造設計
〃	6月		1	6	超高層建築	学校にて選定	〃	3	40	建築構造設計
現場見学	6月		1	6	重要な建築業による建築物	学校にて選定	県立高崎工業高等学校	1	40	建築構造
〃	10月		1	6	建築現場(木造)	建設業協会または学校にて選定	〃	1	40	建築構造
〃	6月		1	6	建築現場(鋼構造)	建設業協会または学校にて選定	〃	2	40	建築構造
〃	10月		1	6	建築現場・研究施設	学校にて選定	〃	2	40	建築計画
〃	6月		1	6	建築現場(鉄筋コンクリート)	建設業協会または学校にて選定	〃	3	40	建築施工
伝統文化財や伝統建築物の調査・再生、木造耐力壁の研究・製作・実験 等	通年		20	80	学校・文化財所在地	建築士会・前橋市役所・建設業組合連合会・前橋工科大	県立前橋工業高等学校	3	10名程度(希望者)	課題研究
伝統技能習得、出前ものづくり	通年		20	80	学校・出前先	建設業組合連合会・学校	〃	3	10名程度(希望者)	選択実習
伝統技能習得、省エネルギー建築物の設計等	通年		20	80	学校	建設業組合連合会・前橋工科大	〃	3	10名程度(希望者)	選択実習
合計				72	326					350

## 夏期研究協議会「建築法令指導講習会」に参加して

東京都立総合工科高等学校 富田 真理子

「夏期研究協議会 建築法令指導講習会」に参加させていただき、8/4（月）の「建築家会館」に於ける佐久間順三からの講習と8/5（火）「表参道ヒルズ」及び近隣の建築物見学など、貴重な内容を受講させていただきました。

第1日目の午前中は、改正建築基準法における変更点から「建築確認・検査の厳格化について」「指定確認検査機関の業務の適正化」「図書保存の義務化」「建築士および建築士事務所の業務の適正化」「罰則の強化」について、また、「シックハウス対策」、「天空率」、「4号建物の緩和規定」などについても詳しくご説明いただきました。特に、法改正前後の運用に関する現状については、現場の混乱を避けるための措置や法の適用前後の産業界への影響など実務に就いておられる先生ならではのお話を伺うことができ、興味深く拝聴しました。午後はスライドによる接合端部にかかる引張り・圧縮力の説明の後、木造2階建ての課題演習を行いました。実際に問題を解き解説をしていただくことによって内容の再確認を行うとともに、より深く理解をすることができました。高校生にもマスターさせておいて欲しいとの先生のお話を伺い、卒業後実務に耐える生徒を育てる使命について再考しました。

第2日目午前中は、「表参道ヒルズ」の見学を行いました。館長の荒川様より「同潤会 青山アパート」以前からの経緯や海の森から明治神宮の森へと続く東京のグリーンベルト構想、さらに表参道の傾斜に合わせた館内スロープの勾配の設定についてのお話を伺いました。中でも、東側の「同潤館」の再現については戦時中の空襲で「青山アパート」で多くの方々が亡くなった辛い記憶を思い出すため古くからの住民の方からの反対もあった事を初めて知り、法の改正や都市の再開発など大きな影響力を持つ事業には社会の現実との細かい調整が必要であることを昨日の研修に続いて考えさせられました。



「同潤館」外観



「同潤館」入口内部



避難用繩梯子（保存）

地下3階事務室でのご説明の後、2班に分かれて上階へと館内を見学させて戴きました。館内の見学では、スパイラルスロープを歩き店舗を見ながら負担なく上階へと上っていく心地よさを感じると同時に、何階にいるのか認識しづらい点や水平部分とスロープが接する部分での小さな段差などの問題に対する避難計画や安全対策について関心を抱きました。この2点については、テナント間の親睦を図る工夫や1フロアごとに防災責任者を設けて避難訓練を実施していること、また段差部分には森ビルでプランターを設置し注意を喚起していることなどをご説明いただき、建築物がハードとソフトの両面から成立していくことを再実感しました。



表参道と同じ勾配のスロープ



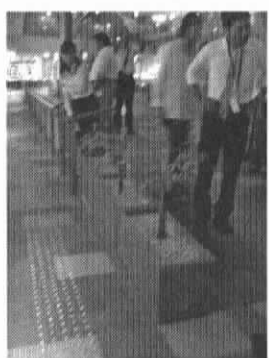
店舗外観



店舗ディスプレイ



段差対策のプランター



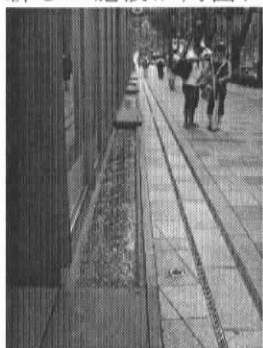
水平部とスロープ



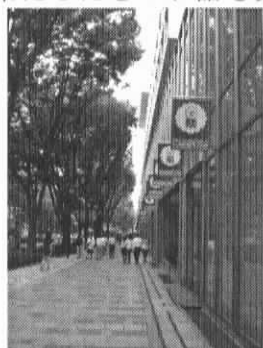
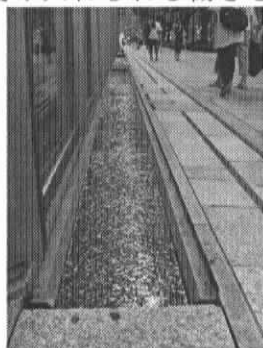
水平部よりスロープを見る

その後、「同潤館」見学、外部見学を経て新しい住居部分のモデルルーム、さらに屋上緑化見学に案内していただきました。

外部の表参道との間にある幅60cm程の流れは「斜面と境界」を認識させる効果的なデザインだと思いました。スタッフの方々が始めた週4回の表参道の清掃が、新しい施設が周囲に受け入れられる働きを果たしたとのお話も興味深いものでした。

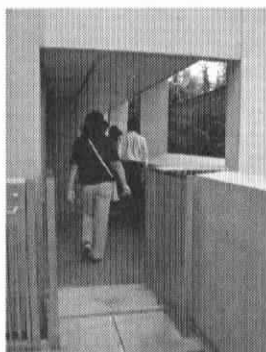


重力で流れ、ポンプで循環させる水（雨水利用）



表参道側外観

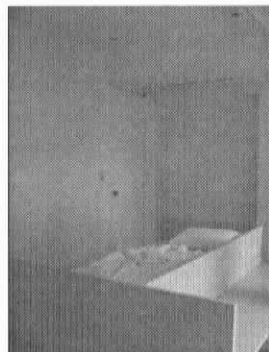
通常では拝見出来ない新しい住居部分へ3階の外部通路から続く小さな門を入ると、商業ビルの賑やかさからは一転して静かな空気が流れます。この住居部分は旧「青山アパート」の居住者の他はクリエイター、デザイナーなどを対象とし、情報発信源としての住居を意図しているとお話でした。モデルハウス内部は暖かみのある白木と白色を基調とした機能的なデザインで、大きなテーブルが印象的でした。奥行の広いベランダからは表参道ヒルズがその高さを超えないようにしたケヤキの街路樹が見えます。「同潤館」と新しい住居部分、それぞれから見下ろす表参道の眺めの違いに数十年の時の流れを感じました。



住居部分入口



モデルルーム内部



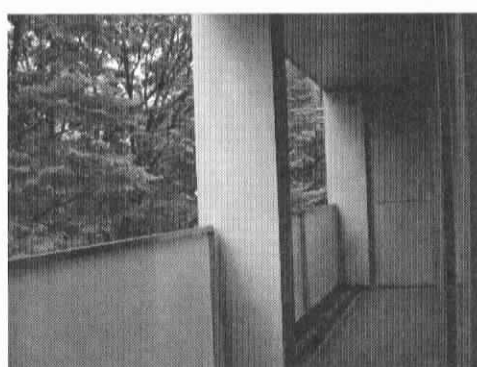
同 ベッドスペース



モデルルームキッチン



モデルルームバス・トイレ



モデルルームベランダ



旧青山アパートから表参道を見る



モデルルームベランダから表参道を見る

午後は、近在する建築物の見学をしました。雷雨に見舞われる部分もありましたが、表参道の町並みを新しい視点で見直すこともでき、充実した研修をさせていただいたことに感謝しています。

## 事務局報告

### 1. 大会開催都道県について

現在、開催順を下記の通り計画をしております。

20	21	22	23	24	25	26	27
北陸大会	埼玉	福島	神奈川	宮城	新潟	茨城	山形
終了	決定	決定	決定	決定	予定	予定	予定

### 2. 東日本建築教育研究会HPをご利用ください。

各種要綱・案内、申し込みフォームなどが掲載されております。

[http://www.geosities.jp/hn\\_kkk](http://www.geosities.jp/hn_kkk)

## 連絡

1. 東日本建築教育研究会刊行物の、ご利用をお願いいたします。

2. 準会員

【申請】 釘本 晃一 佐賀県立唐津工業高等学校

3. 事務局の交代について

北陸大会終了後本部事務局が、田無工業高等学校より葛西工業高等学校に移転いたしました。

☆事務局 東京都立葛西工業高等学校・建築科内

事務局長 鈴木 隆 / 会計 落合 知枝

☆所在地 〒134-0003 東京都江戸川区一之江7-68-1

TEL 03-3653-4111 FAX 03-3674-6187

Eメール <higasijimu@yahoo.co.jp>

## 編集後記

本年度も「建築教育ニュース」2008年号が出来上がりました。  
公務多忙の中、また、私的時間を割いて執筆に携わっていただいた先生方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

2008. 12

東日本建築教育研究会・事務局

編 集：東日本建築教育研究会・事務局

発 行：東日本建築教育研究会・事務局（代表：佐藤 則夫）

事務局：〒130-0024 東京都江戸川区一之江7-68-1 TEL03-3653-4111  
東京都立葛西工業高等学校（事務局長 鈴木 隆）